

## サマリー

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2013年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2013年度に開講された337講義である。2013年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,134人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は2,784人であり、アンケート調査の回答率は88.8%であった。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、5段階評価で回答することとなっている。

経営戦略専攻企業経営戦略コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のものでしたか」のスコアは、通年で4.29、春学期が4.31、秋学期が4.26となっており、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は概ね高い水準を維持しているといえる。通年での設問13の4.29というスコアは、過去の平均の4.33を少し下回っているものの、前年度の4.25を上回っている。他方、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して、学生自身の取り組みについて問うている設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアが低いことが、過去から見られる全般的な傾向としてあげられる。この傾向は、2013年度も続いており、今回も通年でそれぞれ4.00、3.88であり、それぞれの過去の平均と同じレベルであった。学生の予習や復習などの学習を促すことについては、引き続き、各教員が努力していくべき分野である。

次に、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群別にデータを分析すると、コア科目群は、2012年度には、前年度や平均と比較して低いスコアとなっていた。しかし、2013年度は、回復傾向にあり、通年で見るとすべての設問で前年度を上回っている。また、多くの設問で、平均よりも高いスコアとなっている。これに対して、ベーシック科目群とアドバンスト科目群は、前年度や平均と比較すると、少し低めのスコアになっている。ベーシック科目群とアドバンスト科目群における全般的なスコアのレベルそのものは、依然として高いものであり、現段階では大きな問題であるとは考えにくい、今後も継続してチェックしていく必要があるだろう。

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価については、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察した。

コア科目群とベーシック科目群については、基本的な理論とその現場への応用、学生の考える力と理解力をつけることを目的にした授業を行うことに力を注いでいる様子がうかがえるとともに、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

アドバンスト科目に関しては、専門内容の深い理解とケースを使用した実践での応用を中心にした授業が多くみられた。「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「もっと積極的に討論を刺激していく工夫が必要であった」と感じる教員もいた。

課題研究の科目群に関しては、学生自ら発想し、テーマの設定、深くテーマの追及を行って研究を纏めていくプロセスを導いていく授業を目指したものが多かった。「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」という問いに関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィールドワークに取り組みせたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の1ヶ月前になっても取り組めない人がいる。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見や、「論文のできあがりという点で、目標を十分に達成できたとは思っていない」という意見もあった。

経営戦略専攻国際経営コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、授業評価結果は、通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね良好であり、過去2年間を上回っている。多くの質問項目の平均が4点台後半の高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去2年との比較をしてみると昨年2012年度は2011年度よりも全体的に評価が下がったが、2013年度はすべてで2011年、2012年を上回った。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては4.77、質問項目2「The instructor

was well prepared for the classes」が 4.71、質問項目 1 「The course met the objectives and topics described in the syllabus」においては 4.70 という高い評価点が見受けられる。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。

一方、比較的低い評価であったのは、質問 4 「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が 4.38、質問 10 「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が 4.48、質問 11 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が 4.50 であった。これらの質問からわかるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では低いレベルにある点である。

次に、コア、ベーシック、アドバンスト科目群による同評価結果について過去 2 年との比較をしてみると、2012 年度よりも全体的に評価が上がり、2011 年度の評価をも上回っている。注目すべきは、過去の傾向とは少し違う傾向が見られたことである。つまり、コアよりはベーシックが上回っていることは過去の傾向と同じであるが、ベーシックよりアドバンスの方が、評価が若干低く推移している点である。国際経営コースの学生のコース選択は自由であり、アドバンストをベーシックよりも先に履修する学生も見受けられる。そのため、履修したアドバンスト科目が、学生が期待していた内容と違った、または学生の能力がそのレベルに達していないのに履修してしまった等の理由でコース満足度が高くならなかったことがベーシックよりアドバンスの方が低い評価である理由として考えられる。この点に関しては、今後の推移を見守りたい。

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、授業評価の結果が秀でた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である点などが注目される。

本年度に全体コースの再編成が完成し、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が来年度から解消される。このカリキュラム改編後の評価結果を分析したうえで、制度の修正をどうすべきか判断すべきであろう。

会計専門職専攻の学生の今回のアンケート結果について分析すると、専攻平均値は、

2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で安定的な推移をしてきた。2012年度と2013年度春学期には4.6となり、そして、2013年度秋学期には4.7と開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

「教員の授業内容と方法」についての設問について専攻全体での平均値は、2013年度春学期の設問2を除いて、2012年度と同位または上昇している。特に、設問1は4.8、設問2（2013年度秋学期）は4.9、設問3は4.9、そして、設問4と設問9では、春学期から秋学期にかけて4.7から4.8に上昇している。以上より、専攻平均値の推移にもみられるように（慎重な配慮も必要ではあるものの）、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、設問6と設問8の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

次に、科目群ごとの評価に目を向けると、教員の授業内容などについての設問1から設問4の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はないが、学生への配慮などについての設問5から設問8については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあろう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

「学生自身の取り組み」を問う設問10と設問11の評価は、春学期よりも秋学期の方が高くなる傾向がある。設問10については、2013年度秋学期にこれまでで最も高い値となっており、また、設問11については、2013年度春学期に低下したものの、秋学期にはこれまでで最も高い値となっている。学生自身の予習・復習の取り組み、自分から文献を探すなどの努力について改善、特に春学期から秋学期にかけて改善の取り組みがうかがえる。ただし、他の設問に比して、いぜん低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものともいえ、今後とも注視すべき値である。

会計専門職専攻の所属教員に対する担当科目の自己評価から観察できる全体的な傾向を科目群別に整理すると、おおよそ以下のようにまとめることができる。

設問1の「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか」について、

コア科目では、その分野について初めて学習する学生が多いため、その分野の基礎的・体系的な知識や、基本的な計算・論述能力を身につけさせる回答が最も多かった。また、できる限り分かりやすく説明しようと試みる回答も多かった。アドバンスト科目では教員の専門性を生かして特定のテーマを詳細に解説・議論したり、高度な実務の解説を行うことが多い。また、授業形式としてはグループワーク、グループディスカッションなど演習形式の授業を導入している教員が多く、学生に積極的な参加を促している。ベーシック科目は大体その中間といったところであった。

設問2の「この科目において、実施してよかった点」について、コア科目では、基本的に多人数相手の講義形式の授業が一般的なため学生の理解度を把握しにくい、学生も積極的に勉強する動機づけが得られないなどの問題を解消するために、多くの授業では、小テストや宿題、レポートなどを複数回実施して、学生の理解度の確認に使ったり、学生に積極的な学習を促している。アドバンスト科目では、高度な内容の演習問題を解いたり、また、高度な実務に関するケーススタディやディスカッションなどを通じて、学生の積極的な参加を促している。ベーシック科目は大体その中間といったところであった。

設問2の「改善・工夫をした方がよい点」については、コア科目では、理論の解説と問題演習の時間配分など時間配分に関する回答が目立った。アドバンスト科目では、授業でどのテーマを取り扱うのかについて、教員の裁量の幅が広いので、具体的にどのテーマを取り扱うのか、また、ケーススタディでどのケースを取り上げるのかについて悩んでいる回答が多かった。また、学生の理解度に大きな差がある、との回答はコア、ベーシック、アドバンスのいずれでも比較的多かった。

設問3の「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」については、コア科目ではほとんどの授業で教員の当初の目標を達成しているが、ベーシック科目やアドバンスト科目ではあまり達成できなかったとする回答も多かった。あまり達成できなかったとの回答の多くは、教員が求める知識水準まで、学生が達していないことをその理由として挙げていた。

## 1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2013年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2013年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

## 2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏集中）・秋学期（第3

クォーター、第4クォーター、冬集中)の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

#### (1) 実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2013年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目(複数クラス開講分を含む)は、337講義(春学期167講義、秋学期170講義)である。その内訳は、経営戦略専攻が172講義(企業経営戦略コース105講義、および国際経営コース67講義)、会計専門職専攻が165講義であった。

#### (2) 回答者、回答率等について

2013年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,134人(延べ人数、以下同じ)で、そのうち、春学期が1,663人、秋学期が1,471人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は2,784人(春学期1,491人、秋学期1,293人)であり、アンケート調査の回答率は88.8%(春学期89.7%、秋学期87.9%)であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1,876人(企業経営戦略コース1,555人および国際経営コース321人)で、そのうち、春学期は1,014人(企業経営戦略コース830人および国際経営コース184人)、秋学期は862人(企業経営戦略コース725人および国際経営コース137人)であった。アンケート調査の回答者数については、1,684人(企業経営戦略コース1,383人および国際経営コース301人)であった。そのうち、春学期は911人(企業経営戦略コース739人および国際経営コース172人)、秋学期は773人(企業経営戦略コース644人および国際経営コース129人)であった。回答率は89.8%(企業経営戦略コース88.9%および国際経営コース93.8%)である。そのうち、春学期は89.8%(企業経営戦略コース89.0%および国際経営コース93.5%)、秋学期は89.7%(企業経営戦略コース88.8%および国際経営コース94.2%)であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,258人(春学期649人、秋学期609人)で、アンケート調査の回答者数は1,100人(春学期580人、秋学期520人)あり、その回答率は87.4%(春学期89.4%、秋学期85.4%)であった。

#### (3) 実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2013年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。

また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2013年5月20日（月）～6月2日（日）

第2クォーター開講科目：2013年7月16日（火）～7月29日（月）

夏集中講義開講科目：2013年7月30日（火）～8月25日（日）

第3クォーター開講科目：2013年11月2日（土）～11月10日（日）

第4クォーター開講科目：2014年1月14日（火）～1月20日（月）

冬集中講義開講科目：2014年1月28日（火）～3月2日（日）

#### （4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
  1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
  2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。（1）実施してよかった点、（2）改善・工夫をした方がよい点」
  3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたこと



を踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

#### (5) 集計

2013年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

### 3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

#### A. 学生による授業評価アンケート

##### (1) 概観

以下では、2013年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析していく。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2013年度の数字を平均したものである）。

2013年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足いくものでしたか。」のスコアは、通年で4.29、春学期が4.31、秋学期が4.26であり、十分に高い水準であると考えられる。通年での設問13の4.29というスコアは、過去の平均の4.33を少し下回っているものの、前年度の4.25を上回っている。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2013年度も通年で4.66と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して、引き続き低い状況が続いている。2013年度の設問10のスコアは通年で4.00、設問11のスコアは、3.88であり、それぞれの過去の平均と同じレベルであった。学生の予習や復習などの学習を促すことについては、引き続き、各教員が努力していくべき分野である。

表 1 : 全科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
平均	4.51	4.56	4.70	4.36	4.44	4.15	4.19	4.17	4.51	4.00	3.85	4.08	4.32	4.28

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
平均	4.55	4.57	4.68	4.41	4.43	4.21	4.27	4.26	4.54	4.04	3.95	4.13	4.34	4.32

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
平均	4.53	4.56	4.69	4.38	4.44	4.18	4.22	4.21	4.52	4.02	3.90	4.10	4.33	4.30

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目群は、2012年度には、前年度や平均と比較して低いスコアとなっていた。しかし、2013年度は、回復傾向にあり、通年で見るとすべての設問で前年度を上回っている。また、多くの設問で、平均よりも高いスコアとなっている。これに対して、ベーシック科目群とアドバンスト科目群は、前年度や平均と比較すると、少し低めのスコアになっている。たとえば、ベーシック科目群の通年における設問13の満足度を問うスコアは、4.21で前年度の4.33、平均の4.32よりも、やや低い。また、アドバンスト科目群の通年における設問13は、2013年度は4.41で、前年度の4.47、平均の4.48よりも、やはり少し低いものとなっている。ベーシック科目群とアドバンスト科目群における全般的なスコアのレベルそのものは、依然として高いものであり、現段階では大きな問題であるとは考えにくい。今後も継続してチェックしていく必要があるだろう。

表2：コア科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
平均	4.35	4.37	4.62	4.16	4.16	3.82	3.95	3.85	4.32	3.85	3.60	3.74	3.98	4.00

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
平均	4.42	4.39	4.60	4.24	4.09	3.91	4.11	4.11	4.36	3.94	3.76	3.90	4.08	4.06

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
平均	4.39	4.39	4.62	4.20	4.14	3.86	4.02	3.96	4.35	3.89	3.68	3.82	4.03	4.03

表3：ベーシック科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
平均	4.52	4.59	4.71	4.37	4.49	4.15	4.13	4.17	4.50	3.99	3.74	4.08	4.33	4.30

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
平均	4.55	4.57	4.70	4.39	4.40	4.15	4.20	4.19	4.48	3.98	3.78	4.11	4.31	4.30

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
平均	4.53	4.58	4.70	4.37	4.45	4.14	4.15	4.17	4.49	3.99	3.76	4.08	4.32	4.30

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
平均	4.60	4.64	4.74	4.47	4.56	4.36	4.39	4.37	4.63	4.10	4.08	4.28	4.50	4.44

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
平均	4.60	4.64	4.71	4.47	4.59	4.36	4.37	4.37	4.64	4.11	4.12	4.24	4.47	4.42

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
平均	4.60	4.64	4.73	4.47	4.58	4.36	4.38	4.37	4.64	4.11	4.10	4.26	4.48	4.43

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は一般的に満足いくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値

春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	35	3.80	4.03	4.16
経営学	1	28	4.31	4.26	4.52
経営学	2	23	4.30	4.48	4.43
会計学	1	34	4.21	4.56	4.47
経済学	1	17	2.55	2.80	3.20
統計学	1	21	3.89	3.74	4.16
統計学	2	28	3.41	3.78	3.91
英語コミュニケーション	1	17	4.35	4.65	4.65
英語コミュニケーション	2	18	3.71	4.29	4.29

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業倫理	2	29	3.59	3.50	3.71
経営学	3	10	4.67	4.89	4.67
会計学	2	21	4.00	3.95	4.15
経済学	2	6	3.83	3.83	4.50
英語コミュニケーション	3	15	4.40	4.92	4.92
英語コミュニケーション	4	15	3.92	4.46	4.38

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	1	15	4.25	4.17	4.45
人的資源管理	1	30	4.07	4.32	4.29
組織行動		46	3.97	4.35	4.33
マーケティング・マネジメント	1	24	4.17	4.50	4.67
ファイナンス	1	19	4.00	4.19	4.38
企業ファイナンス	1	8	3.57	3.86	3.71
テクノロジー・マネジメント	1	10	4.10	4.60	4.70
情報システム		8	4.38	4.88	4.88
ベンチャービジネス	1	20	3.74	4.21	4.32
行動科学		29	4.14	4.11	4.28
クリティカル・シンキング		24	4.04	4.22	4.35
会社法		9	3.86	4.14	4.14
上級英語コミュニケーション	1	8	4.50	4.67	4.83

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	2	18	4.33	4.60	4.73
経営戦略	3	18	4.00	4.17	4.22
人的資源管理	2	8	4.14	4.29	4.57
マーケティング・マネジメント	2	14	1.83	1.75	2.08
ファイナンス	2	30	4.04	4.50	4.50



企業ファイナンス	2	5	4.25	4.50	4.75
管理会計		12	3.89	3.78	3.78
財務諸表分析		27	3.29	3.42	3.38
テクノロジー・マネジメント	2	15	3.57	4.57	4.43
生産システム		10	4.00	4.40	4.50
ベンチャービジネス	2	23	3.86	4.23	4.32
統計分析論		23	4.14	4.19	4.29
ゲーム理論		17	4.19	4.44	4.63
グローバル・エコノミー		8	4.13	4.50	4.63
上級英語コミュニケーション	2	3	5.00	5.00	5.00

#### 春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業経営史		13	4.25	4.58	4.67
組織管理		21	4.00	4.20	4.47
国際経営		20	3.76	4.12	4.00
マーケティング・コミュニケーション	1	26	3.56	3.94	3.94
マーケティング戦略		8	4.00	4.50	4.38
流通システム		11	4.60	4.90	4.60
ロジスティクス		9	4.57	4.57	4.57
国際マーケティング		11	3.63	3.63	4.00
Special Topics in Marketing (CSMC)		5	4.33	4.67	4.67
金融工学		18	4.44	4.75	4.63
証券投資		11	4.63	4.63	4.75
リスクマネジメント		13	4.27	3.82	4.27
製品開発事例研究		11	3.60	3.90	3.90
標準化経営戦略		10	4.11	4.40	4.30
アントレプレナーシップ		11	4.40	4.70	4.70
ベンチャービジネス事例研究		25	4.42	4.92	4.83
企業倫理事例研究		10	4.00	4.78	4.67
研究開発型ベンチャー創成		41	4.24	4.37	4.61
企業経営戦略特論D		12	4.64	4.36	4.45

企業経営戦略特論G		16	3.77	4.23	4.23
Product Innovation (CSMC)		3	4.67	4.67	4.67

### 秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業家論		18	4.06	4.59	4.47
人材マネジメント		18	4.24	4.59	4.59
事業システム戦略論		25	4.26	4.47	4.53
サービス・マーケティング		9	3.89	4.22	4.11
チャネル・マネジメント		4	4.75	4.75	4.75
ブランド・マネジメント		16	4.33	4.60	4.67
マーケティング・コミュニケーション	2	7	4.29	4.86	4.86
消費者行動		18	4.07	4.29	4.36
マーケティング・リサーチ		13	4.67	4.67	4.67
金融商品		3	4.33	4.67	4.67
製品開発		14	4.42	4.50	4.50
データマイニング		13	4.33	4.75	4.75
新規事業計画		36	4.44	4.53	4.56
中小企業経営革新		53	4.28	4.64	4.58
知的財産権法		3	4.50	4.50	4.50
企業経営戦略特論B		12	3.91	4.36	4.45
企業経営戦略特論E		13	3.80	3.70	3.90
企業経営戦略特論F		43	3.14	3.22	3.28

### B. 教員による担当科目自己評価

教員による授業アンケートは、各担当教員に「教員担当科目自己評価表」が配られ、教員自身が「科目を担当するに当たって最も力を入れたこと」、「実施して良かった点と改善・工夫をした方がよい点」、「当初予定していた目標は達成されたか」の3つの項目に関して記述式で回答したものであり、学生評価のような定量的な評価ではない。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察する。教科を教えるにあたっての教員の様々な工夫や努力を紹介し、他の教員の参考とするためにもできるだけコメントを多く掲載した。

(1) コア科目群：

「最も力を入れたこと」に関しては、「必ずしも履修意欲が高くない学生に対して、考える機会を与え、科目の積極的な意義を理解してもらう」、「基礎的な概念や理論についての理解」、「最新の教科書の使用」、「新聞記事、雑誌記事などの活用」などが挙げられた。

「実施してよかった点」に関しては、「ゲストスピーカーによる講義」、「受講生の投票による最優秀グループワーク賞の選定」、「自社についての分析・プレゼン」、「全員に発表してもらう」、「小テストの実施」、「毎回の宿題」などが挙げられた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「学生の発言機会の増大」等、授業にかんして学生の主体的な関与を促すかが課題となっている。また、ある科目では「できる人とできない人の差が大きいので、その溝を埋める工夫が必要」との指摘があった。

上述のような課題はあるものの、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

(2) ベーシック科目群：

概観すると、ベーシック科目群もコア科目群と同様、基本的な理論とその現場への応用、学生の考える力と理解力をつけることを目的にした授業を行うことに力を注いでいる様子がうかがえる。

「最も力を入れたこと」に関しては、「ベーシックな理論や分析フレームワークを実際のケースに応用して分析する力を養う」、「レクチャーとグループディスカッションとケース負荷のバランス」等が挙げられた。授業終了後にネットワーキングを心掛けている講義も見られた。

「実施してよかった点」に関しては、「講義したフレームワークを使って自社の分析をする」、「ケースのグループ発表」、「ケースレポートの毎回の提出」、「新作ケースの使用」、「外部の講師を招いた講演会」等の内容面での充実に加え、「数多くの参考文献を著作権にも配慮しつつ、ダウンロード可能な状態にして配布する」、「役に立つウェブサイトの紹介」、「講義の時間配分の改善」等、各教員が工夫を凝らしていることがわかる。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては「基礎学力不足の受講生に対する、懇切丁寧な指導」、「最新の話題を取り入れる」、「レクチャーが続くと受講生の集中力がとぎれがちになるので、ケースや演習方式を導入」したほうが良いという意見があった。「授業開始時に小テストを実施する等して、事前に学生の力量を把握するように努めたい」との意見があった。また、「他教科との連携」といった事項を挙げる教員がいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたこ

とを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

(3) アドバンスト科目群：

アドバンスト科目に関しては、専門内容の深い理解とケースを使用した実践での応用を中心にした授業が多くみられた。

「最も力を入れたこと」に関しては、米国のビジネススクールと同程度の内容をカバーすることを目指した科目があった。教科書・参考書から学ぶ知識と具体的な事象とを結びつけることに力を注いだ講義もあった。

「実施してよかった点」に関しては、レポートを課し、それに対して教員およびゲストからコメントをフィードバックするようにした講義があった。グループ研究やケースレポートを実施した講義もあった。実データを用いた解析や発表会を行う講義もあった。演習を多用した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、グループディスカッションを増やすことを挙げる者がいた。また、インターネットやクロスメディアのケースをもっと増やす必要があると感じる教員もいた。エクセルを用いて演習の密度を向上させることを検討する教員もいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「もっと積極的に討論を刺激していく工夫が必要であった」と感じる教員もいた。

(4) 課題研究科目群：

課題研究の科目群に関しては、学生自ら発想し、テーマの設定、深くテーマの追及を行って研究を纏めていくプロセスを導いていく授業を目指したものが多かった。

「最も力を入れたこと」に関しては、「データなど根拠を示して説得的な議論を展開」し、「課題研究のプロセスで得た体験が卒業後も何らかの役に立つよう指導することを心掛けた」ことを目指して講義が行われていた。

「実施してよかった点」に関しては、課題研究基礎において「統計データを用意して、具体的に統計手法の適用例を紹介した」講義があった。講義の運営面では、「3月からクラスを開始して、オリエンテーションやテーマ設定を4月はじめまでに終えることができた」講義や「OB・OGとの合同授業、ゼミ合宿や交流会を実施した」講義もあった。達成度についても、論文投稿を目指した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「文献の探索について事前に徹底するこ

とが必要」といった研究手法の指導法に関するものや、個々の学生の発表時間の平準化や研究の進捗管理など時間マネジメント面での課題も指摘された。「取り組み姿勢、分析能力等のばらつきが学生間にあり、課題研究を週複数回開催すること等の検討が必要」との指摘があった。

「この科目を担当するにあたって・・・自身の思っていた目標は達成されたか」という問いに関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィールドワークに取り組みたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の1ヶ月前になっても取り組めない人がいる。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見や、「論文のできあがりという点で、目標を十分に達成できたとは思っていない」という意見もあった。

#### 経営戦略専攻・国際経営コース

##### A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2013 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去2年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1 : 2013 年度授業評価結果 (2011 年、2012 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

全科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2011	4.61	4.72	4.78	4.39	4.60	4.53	4.33	4.44	4.58	4.33	4.27	4.43	4.57	4.56
	2012	4.45	4.40	4.64	4.24	4.49	4.41	4.26	4.12	4.37	4.16	4.13	4.34	4.33	4.40
	2013	<b>4.67</b>	<b>4.73</b>	<b>4.78</b>	<b>4.46</b>	<b>4.69</b>	<b>4.59</b>	<b>4.60</b>	<b>4.48</b>	<b>4.64</b>	<b>4.46</b>	<b>4.45</b>	<b>4.55</b>	<b>4.53</b>	<b>4.56</b>
秋学期	2011	4.59	4.66	4.64	4.31	4.59	4.50	4.33	4.42	4.53	4.35	4.33	4.42	4.51	4.50
	2012	4.42	4.54	4.60	4.13	4.46	4.33	4.32	4.25	4.36	4.22	4.16	4.20	4.33	4.35
	2013	<b>4.73</b>	<b>4.69</b>	<b>4.76</b>	<b>4.30</b>	<b>4.55</b>	<b>4.61</b>	<b>4.56</b>	<b>4.56</b>	<b>4.65</b>	<b>4.50</b>	<b>4.56</b>	<b>4.51</b>	<b>4.53</b>	<b>4.64</b>
通年	2011	4.60	4.70	4.73	4.36	4.60	4.52	4.33	4.43	4.56	4.34	4.29	4.43	4.55	4.54
	2012	4.43	4.47	4.63	4.19	4.47	4.37	4.29	4.18	4.36	4.19	4.15	4.27	4.33	4.37
	2013	<b>4.70</b>	<b>4.71</b>	<b>4.77</b>	<b>4.38</b>	<b>4.62</b>	<b>4.60</b>	<b>4.58</b>	<b>4.52</b>	<b>4.65</b>	<b>4.48</b>	<b>4.50</b>	<b>4.53</b>	<b>4.53</b>	<b>4.60</b>

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね良好であり、過去2年間を上回っている。多くの質問項目の平均が4点台後半の高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得て

いる。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去2年との比較をしてみると昨年2012年度は2011年度よりも全体的に評価が下がったが、2013年度はすべてで2011年、2012年を上回った。背景には、教員のFDに関する努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧で応答型の教育で内容が学生に十分に伝わるクラスが増えたことではないかと推測される。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多くなり満足度の向上につながったとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと思う。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては4.77、質問項目2「The instructor was well prepared for the classes」が4.71、質問項目1「The course met the objectives and topics described in the syllabus」においては4.70という高い評価点が見受けられる。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が4.65、質問6「Instructor's interest in whether students learned was high」と質問14「Course content were highly relevant and useful for your future career」がともに4.60であった。

一方、比較的低い評価であったのは、質問4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が4.38、質問10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が4.48、質問11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が4.50であった。上記質問4の結果は、学生が実際にテキストを購入し事前に準備しているのか否かという疑問を提起させる。質問10、質問11は昨年も比較的低評価であったが、コースに対する学生の姿勢に対する評価である。これらの質問からわかるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では低いレベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったと考えられる。

表2：2013年度授業評価コア科目群結果（2011年、2012年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

コア科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2011	4.53	4.73	4.84	4.18	4.69	4.53	4.18	4.40	4.51	4.22	4.09	4.20	4.53	4.59
	2012	4.25	4.21	4.51	4.09	4.33	4.25	4.42	4.05	4.23	4.07	3.93	4.12	4.20	4.25
	<b>2013</b>	<b>4.76</b>	<b>4.81</b>	<b>4.82</b>	<b>4.70</b>	<b>4.74</b>	<b>4.68</b>	<b>4.88</b>	<b>4.72</b>	<b>4.70</b>	<b>4.69</b>	<b>4.55</b>	<b>4.72</b>	<b>4.71</b>	<b>4.73</b>
秋学期	2011	4.40	4.53	4.60	4.10	4.57	4.40	4.21	4.30	4.30	4.10	3.93	4.14	4.23	4.27
	2012	4.62	4.50	4.53	4.31	4.50	4.42	4.40	4.44	4.31	4.28	4.31	4.22	4.44	4.39
	<b>2013</b>	<b>4.60</b>	<b>4.55</b>	<b>4.53</b>	<b>3.84</b>	<b>4.27</b>	<b>4.36</b>	<b>4.55</b>	<b>4.50</b>	<b>4.42</b>	<b>4.17</b>	<b>4.22</b>	<b>4.20</b>	<b>4.09</b>	<b>4.42</b>
通年	2011	4.48	4.65	4.75	4.15	4.64	4.48	4.19	4.36	4.43	4.17	4.03	4.18	4.41	4.46
	2012	4.38	4.32	4.52	4.17	4.40	4.31	4.41	4.21	4.26	4.15	4.08	4.16	4.29	4.31
	<b>2013</b>	<b>4.68</b>	<b>4.68</b>	<b>4.68</b>	<b>4.27</b>	<b>4.51</b>	<b>4.52</b>	<b>4.72</b>	<b>4.61</b>	<b>4.56</b>	<b>4.43</b>	<b>4.39</b>	<b>4.46</b>	<b>4.40</b>	<b>4.58</b>

表 3 : 2013 年度授業評価ベーシック科目群結果 (2011 年、2012 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

ベーシック科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2011	4.61	4.61	4.77	4.30	4.48	4.43	4.07	4.20	4.45	4.33	4.32	4.52	4.57	4.55
	2012	4.57	4.36	4.59	4.44	4.53	4.42	3.93	3.91	4.34	4.32	4.50	4.61	4.32	4.56
	<b>2013</b>	<b>4.82</b>	<b>4.84</b>	<b>4.83</b>	<b>4.62</b>	<b>4.88</b>	<b>4.79</b>	<b>4.63</b>	<b>4.57</b>	<b>4.77</b>	<b>4.66</b>	<b>4.65</b>	<b>4.61</b>	<b>4.68</b>	<b>4.79</b>
秋学期	2011	4.68	4.73	4.71	4.45	4.71	4.60	4.29	4.42	4.62	4.56	4.51	4.69	4.58	4.56
	2012	4.46	4.58	4.64	4.13	4.55	4.36	4.29	4.27	4.41	4.35	4.29	4.30	4.36	4.43
	<b>2013</b>	<b>4.76</b>	<b>4.74</b>	<b>4.84</b>	<b>4.31</b>	<b>4.56</b>	<b>4.70</b>	<b>4.45</b>	<b>4.56</b>	<b>4.70</b>	<b>4.50</b>	<b>4.65</b>	<b>4.49</b>	<b>4.59</b>	<b>4.68</b>
通年	2011	4.65	4.67	4.74	4.38	4.60	4.52	4.18	4.31	4.54	4.44	4.42	4.61	4.57	4.55
	2012	4.50	4.50	4.62	4.24	4.55	4.38	4.17	4.15	4.38	4.34	4.36	4.41	4.35	4.47
	<b>2013</b>	<b>4.79</b>	<b>4.79</b>	<b>4.83</b>	<b>4.46</b>	<b>4.71</b>	<b>4.74</b>	<b>4.54</b>	<b>4.57</b>	<b>4.73</b>	<b>4.58</b>	<b>4.65</b>	<b>4.55</b>	<b>4.63</b>	<b>4.73</b>

表 4 : 2013 年度授業評価アドバンスト科目群結果 (2011 年、2012 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

アドバンスト科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2011	4.63	4.74	4.76	4.48	4.61	4.55	4.46	4.52	4.64	4.37	4.31	4.48	4.59	4.55
	2012	4.53	4.56	4.78	4.25	4.58	4.53	4.33	4.31	4.50	4.14	4.06	4.33	4.43	4.41
	<b>2013</b>	<b>4.58</b>	<b>4.67</b>	<b>4.75</b>	<b>4.33</b>	<b>4.60</b>	<b>4.48</b>	<b>4.51</b>	<b>4.37</b>	<b>4.57</b>	<b>4.30</b>	<b>4.33</b>	<b>4.48</b>	<b>4.43</b>	<b>4.42</b>
秋学期	2011	4.61	4.68	4.60	4.31	4.52	4.48	4.42	4.47	4.59	4.32	4.40	4.36	4.59	4.59
	2012	4.18	4.50	4.60	3.95	4.23	4.18	4.30	4.03	4.29	3.88	3.75	3.95	4.15	4.13
	<b>2013</b>	<b>4.76</b>	<b>4.72</b>	<b>4.80</b>	<b>4.45</b>	<b>4.64</b>	<b>4.65</b>	<b>4.61</b>	<b>4.59</b>	<b>4.71</b>	<b>4.61</b>	<b>4.64</b>	<b>4.62</b>	<b>4.64</b>	<b>4.69</b>
通年	2011	4.63	4.72	4.71	4.44	4.58	4.53	4.45	4.51	4.63	4.36	4.34	4.45	4.59	4.56
	2012	4.40	4.54	4.72	4.14	4.45	4.41	4.32	4.21	4.43	4.04	3.95	4.20	4.33	4.31
	<b>2013</b>	<b>4.67</b>	<b>4.69</b>	<b>4.77</b>	<b>4.39</b>	<b>4.62</b>	<b>4.56</b>	<b>4.56</b>	<b>4.47</b>	<b>4.63</b>	<b>4.45</b>	<b>4.48</b>	<b>4.54</b>	<b>4.53</b>	<b>4.55</b>

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンスト科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり、過去 2 年との比較をしてみると 2012 年度よりも全体的に評価が上がり、

2011年度の評価をも上回っている。

注目すべきは、過去の傾向とは少し違う傾向が見られたことである。つまり、コアよりはベーシックが上回っていることは過去の傾向と同じであるが、ベーシックよりアドバンスの方が、評価が若干低く推移している点である。国際経営コースの学生のコース選択は自由であり、アドバンスをベーシックよりも先に履修する学生も見受けられる。そのため、履修したアドバンス科目が、学生が期待していた内容と違った、または学生の能力がそのレベルに達していないのに履修してしまった等の理由でコース満足度が高くならなかったことがベーシックよりアドバンスの方が低い評価である理由として考えられる。この点に関しては、今後の推移を見守りたい。

個々の項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンス科目群すべてで質問3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高く夫々4.68、4.83、4.77と4.5を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価している。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群で質問4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」の4.27、ベーシック科目群でも同じ質問で4.46、アドバンス科目群でも同じく質問4で4.39であった。この結果を分析してみると、学生がテキストブックや教員の教材をあまりつかっていないのではないかとの前述の疑問をさらに強める結果となった。積極的に教員がテキストを購入するように指導し、授業のクイズに使用するなどで自主勉強を促すことを工夫しなければならないかもしれない。

## B. 教員による授業評価アンケート

授業評価の結果が秀でた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。外国人が多いIMCにおいては日本での経験をより多く授業を通して知りたいといった欲求の表れであると思われる。

良かったと評価する項目は、学生に授業時にプレゼンテーションを課すことで授業に自ら関わる姿勢を動機づけするような工夫をすることで学生の学習意欲が上がったと評価している教員が多かった。また、理論や知識だけでなくそれをどのように応用したかの事例を取り扱ったことが学生の理解の向上につながったなどの意見が見られた。

一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが



大変である事などが注目される。学生の全体数が少ないおかげか教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。この傾向は昨年でも見られた。また、多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかとまどっているとの意見もあった。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の習得に関しては、IMC 内での制度的な取り組み（例えば PreMBA のような準備コースの提供など）が必要かもしれない。この取り組みにより、学生の統一的な基礎学力の向上が期待できる。特に、国際経営コースはその様々な国籍と文化的、キャリア、バックグラウンドの違いから、多様な考えと違った知識レベルの学生が入学する。それを統一的な尺度で教えることの難しさを感じる教員が多くいる。しかしながら、多く教員が非常勤や任期制であるため統一的な取り組みを進めるハードルは高い。さらに専任教員は、今まで以上の授業や公務の負担が増えることにつながりかねない。その際には、教育の質を落とさないような慎重な準備と工夫が求められる。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度であるという強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンストコース選択の前の prerequisite 化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを指導する必要があるのかもしれない。

本年度に全体コースの再編成が完成し、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンストの科目履修の重複が来年度から解消される。このカリキュラム改編後の評価結果を分析したうえで、制度の修正をどうすべきか判断すべきであろう。

## 5. 会計専門職専攻

### A. 学生による授業評価

#### (1) 概要

学生による授業評価アンケートは、設問 1 から設問 9 が「教員の授業内容と方法」について、設問 10 および設問 11 が「学生自身の取り組み」について、設問 12 から設問 14 が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および設問 13 とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<各設問の平均値と設問 13 とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	2013 年度春学期		2013 年度秋学期	
		平均値	問13との 相関係数	平均値	問13との 相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	4.8	0.38	4.8	0.47
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.7	0.60	4.9	0.47
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	4.9	0.48	4.9	0.38
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	4.7	0.60	4.8	0.61
5	教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか。	4.6	0.35	4.7	0.38
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.5	0.57	4.5	0.57
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.6	0.43	4.7	0.38
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.6	0.61	4.6	0.52
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.7	0.43	4.8	0.38
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	4.2	0.39	4.4	0.41
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	3.9	0.37	4.2	0.33
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.3	0.56	4.5	0.64
13	この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	4.6	/	4.7	/
14	この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか。	4.6	0.86	4.7	0.82

## (2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ有効回答数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2013 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

### < 専攻平均値の推移 >

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011 年度	2012 年度	2013 年度			
春学期	4.3	4.6	4.6			
秋学期	4.4	4.6	4.7			

専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度秋学期まで 4.4 ないし 4.5

という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で安定的な推移をしてきた。2012年度と2013年度春学期には4.6となり、そして、2013年度秋学期には4.7と開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、2012年度を除いて、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられる。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が専門職大学のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられることから、今後とも、注視する必要がある。また、2013年度は2012年度に引き続き高い値となっているが、以下で分析する科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを引き続き実践していくとともに、今後の動向を注視する必要があるだろう。

### （3）個別評価

#### ① 教員の授業内容と方法

専攻全体での平均値は、2013年度春学期の設問2を除いて、2012年度と同位または上昇している。特に、設問1は4.8、設問2（2013年度秋学期）は4.9、設問3は4.9、そして、設問4と設問9では、春学期から秋学期にかけて4.7から4.8に上昇している。

設問1から設問4の値を踏まえると、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。

設問5から設問8については、2012年度と同位または上昇している。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高位で安定しているものといえよう。

以上より、専攻平均値の推移にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、設問6と設問8の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

#### <設問1から設問10の平均値>

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
(専攻全体)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.1
2010年度春学期	4.6	4.6	4.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	3.9
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.0
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6	4.0
2011年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6	4.1
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7	4.1

2012年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7	4.2
2013年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8	4.4
(コア科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.3	4.4	4.4	4.6	4.1
2010年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.4	3.9	3.9	4.1	4.1	4.3	3.8
2010年度秋学期	4.6	4.7	4.8	4.5	3.9	4.1	4.1	4.2	4.3	3.9
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.0
2011年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6	4.1
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6	4.1
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7	4.2
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7	4.4
(ベーシック科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6	4.6	4.1
2010年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6	4.0
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	3.9
2011年度春学期	4.6	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.7	4.0
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8	4.3
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8	4.3
2013年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9	4.5
(アドバンスト科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7	4.0
2010年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.6	4.0
2011年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8	4.1
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9	4.3
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8	4.3
2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8	4.2
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.4

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、設問1から設問4の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はないが、設問5から設問8については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での設問5から設問8の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・

改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

以上、専攻全体に係る設問 1 から設問 4 の評価より、学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来、教育面での一定の成果が維持されていることが説明できるであらう。ただし、設問 5 から設問 8 の評価などからは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。

<設問 11 から設問 14 の平均値>

	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)				
2009 年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010 年度春学期	3.8	4.1	4.4	4.5
2010 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2011 年度春学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2011 年度秋学期	4.0	4.3	4.6	4.6
2012 年度春学期	4.0	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.1	4.4	4.7	4.7
2013 年度春学期	3.9	4.3	4.6	4.6
2013 年度秋学期	4.2	4.5	4.7	4.7
(コア科目)				
2009 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2010 年度春学期	3.7	3.9	4.3	4.5
2010 年度秋学期	3.8	4.0	4.4	4.5
2011 年度春学期	3.8	4.1	4.4	4.5
2011 年度秋学期	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	3.8	4.2	4.5	4.6
2012 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度春学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度秋学期	4.1	4.3	4.6	4.7
(ベーシック科目)				
2009 年度秋学期	4.1	4.3	4.6	4.7
2010 年度春学期	3.9	4.2	4.6	4.7
2010 年度秋学期	3.8	4.1	4.5	4.6
2011 年度春学期	4.0	4.3	4.6	4.7
2011 年度秋学期	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	4.1	4.3	4.6	4.7

2012年度秋学期	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.0	4.5	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.3	4.5	4.8	4.8
(アドバンスト科目)				
2009年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010年度春学期	4.1	4.4	4.6	4.6
2010年度秋学期	4.0	4.4	4.6	4.7
2011年度春学期	4.3	4.5	4.8	4.8
2011年度秋学期	4.2	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.2	4.5	4.7	4.8

## ② 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問う設問 10 と設問 11 の評価は、春学期よりも秋学期の方が高くなる傾向がある。設問 10 については、2013 年度秋学期にこれまでで最も高い値となっており、また、設問 11 については、2013 年度春学期に低下したものの、秋学期にはこれまでで最も高い値となっている。

学生自身の予習・復習の取り組み、自分から文献を探すなどの努力について改善、特に春学期から秋学期にかけて改善の取り組みがうかがえる。ただし、他の設問に比して、いぜん低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものともいえ、今後とも注視すべき値である。

### <学生自身の取り組みに係る評価の推移>

	2005年度	2005年度	2006年度	2006年度	2007年度	2007年度	2008年度	2008年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	4.1
設問 11	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9
	2009年度	2009年度	2010年度	2010年度	2011年度	2011年度	2012年度	2012年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2
設問 11	3.8	4.0	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1
	2013年度	2013年度						

	春学期	秋学期
設問 10	4.2	4.4
設問 11	3.9	4.2

上述のとおり、設問 10 と設問 11 の評価は、いぜんとして、最も低いものとなっている。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも注意しなければならない。教員による継続的な取り組みとして、設問 10 に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して、これを実践することが考えられる。特に、コア科目に関しては、設問 5 から設問 7 の評価も相対的に低い傾向にあることから、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。

設問 11 に関しては、設問 4 と関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うべきであると考えられる。

### ③ 授業の満足度

設問 12 から設問 14 に対する評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものであり、2013 年度は、2012 年度に引き続き、高い値となっている。

分析能力や批判力が養成されたかを問う設問 12 については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあるかと思われるが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。教員全体としては、後述の教員の担当科目自己評価表の検討を踏まえて、FD 活動において取り上げるべき課題としていくことも考えられる。

さて、学生の満足度を問う設問 13 と比較的高い相関を見せたのは、春学期では、高い順に、設問 8 (相関係数 0.61)、設問 2 と設問 4 (いずれも 0.60)、設問 6 (0.57)、続いて、設問 12 (0.56) であった。秋学期では、高い順に、設問 12 (0.64)、設問 4 (同 0.61)、設問 6 (同 0.57)、設問 8 (同 0.52) であった。これらからは、適切な教科書や配布資料を用いて、個々の学生の理解水準をケアして、授業の内容と時間配分を適正な水準に置き、これらをつうじて、分析能力や批判力の涵養を図っていくことが、学生の満足度につながることを示しているといえよう。

以上より、授業の事前準備のなかで適切な教科書を選択し、配布資料を制作して、授業

内容の水準と量（予習、復習、課題などを含む。）そして授業時間とのバランスを図り、より分析能力・批判力が涵養される授業を実践していくことの重要性を引き続き指摘できよう。

#### B. 授業担当教員による授業自己評価アンケート

教員の担当科目自己評価表では、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という3つの設問について担当教員が自由記述形式で回答した。

次の表は、それぞれの設問項目における回答状況をまとめたものである。

設問1：この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
基礎的・体系的な知識や考え方を身につけさせる	26	16	8
基本的な計算や論述ができるようにする	7	10	3
一定レベル以上の知識・技能を身につけさせる	2	2	4
条文解釈や法的な考え方を身につけさせる	3	6	5
実務で使えるような実践的な能力を身につけさせる	3	3	8
特定のテーマについて実例を示しながら解説する	4	6	12
特定のテーマについて詳細な解説を行う	9	11	10
グループワーク・発表会やディスカッションなど双方向な授業を行う	0	5	13
学生が自主的・積極的に学習に取り組むようにする	4	4	11
できる限り分かりやすく解説する	5	4	1
興味・関心を惹くようにする	1	1	2

設問2：この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。

(1) 実施してよかった点

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目



小テストを実施した点	11	7	5
宿題やレポート課題等を課した点	15	14	5
問題演習を行った点	2	3	10
分かりやすい授業を行った点	6	7	5
理解しやすい・詳しいレジュメや教材を使った点	8	4	3
パワーポイントの利用など、視覚的に分かりやすくした点	1	2	0
授業中に先週の内容を復習した点	3	3	6
実務例を紹介した点・実務例を基に説明した点	7	10	18
学生に積極的に発言・発表させた点	7	8	8
演習などによる双方向な授業を行った点	2	8	19

(2) 改善・工夫をした方がよい点

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
特になし	10	7	11
時間配分を適切に行う	12	6	1
教えるテーマ・ケースを調整する	5	6	10
シラバスの記述や成績評価の方法を見直す	1	4	1
小テストや宿題の回数を増やす	3	1	1
もっと分かりやすく説明する	1	2	4
問題演習を改善する	1	3	6
配布資料・教材・テキストを改善する	6	2	1
実例をもっと紹介する	2	1	3
実務経験のない学生にもわかりやすいように実例の説明を工夫する	1	2	4
特定のテーマについて、もっと詳しく説明を行う	1	2	1
学生の自主的な学習をもっと引き出す	2	1	2
学生の積極的な発言をもっと引き出す	1	6	4
討論などの双方向な授業を導入する・時間を増やす	1	6	4
学生の理解度に差がある	6	4	6

設問3：この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
達成できた・ほぼ達成できた	47	35	47
半分程度達成できた・あまり達成できなかった	1	8	6
分からない	0	2	1

回答自体は自由記述であるが、集計するために似たような回答はまとめてある。このため、実際の回答の文章は必ずしもこの表の回答項目の記述のとおりとはなっていない。どの項目に分類するか非常に悩ましい回答も多数存在したが、その場合は最も近いと思われる項目に集計した。また、表の項目が冗長になるのを避けるため、回答者が1、2人しかいないような少数回答については表にしていない。また、一つの設問に対して複数の項目を回答したものもあるため、表の回答数の合計は担当科目自己評価表の枚数と一致していない。これらの細かな問題はあるものの、自由記述形式のこのアンケートの全体的な回答の傾向を掴むためには、この表は有益と思われる。以下、この表に基づいてアンケートの分析結果を説明する。

設問1：この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか

コア科目では、その分野について初めて学習する学生が多いため、その分野の基礎的・体系的な知識や、基本的な計算・論述能力を身につけさせる回答が最も多かった。また、できる限り分かりやすく説明しようと試みる回答も多かった。ただし、大学院の授業ということもあり、基礎的な知識だけに止まらず、特定のテーマについて深く内容を掘り下げ専門性を高めた授業もみられた。

アドバンスト科目では教員の専門性を生かして特定のテーマを詳細に解説・議論したり、高度な実務の解説を行うことが多い。また、授業形式としてはグループワーク、グループディスカッションなど演習形式の授業を導入している教員が多く、学生に積極的な参加を促している。ベーシック科目は大体その中間といったところであった。

設問2：この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。

(1) 実施してよかった点

コア科目では、基本的に多人数相手の講義形式の授業が一般的なため、ともすれば学生

の理解度を把握しにくく、また、学生も積極的に勉強する動機づけが得られないことがある。この問題を解消するために、多くの授業では、小テストや宿題、レポートなどを複数回実施して、学生の理解度の確認に使ったり、学生に積極的な学習を促している。

アドバンスト科目では、高度な内容の演習問題を解いたり、また、高度な実務に関するケーススタディやディスカッションなどを通じて、学生の積極的な参加を促している。ベーシック科目は大体その中間といったところであった。

## (2) 改善・工夫をした方がよい点

この設問の回答は多岐にわたり、少数回答が多かった。そのため、表では、比較的回答数の多かった項目だけを示している。ただ、その中でも一定程度の傾向はみられた。

コア科目では、理論の解説と問題演習の時間配分をどうすべきか、または、〇〇のトピックにどの程度の時間をかければ良いのか、など、時間配分に関する回答が目立った。ここからは、学生の理解度を小テストやレポート課題などで常にチェックしながら、理解度の足りない分野は丁寧にしようと模索している様子が見えてくる。

アドバンスト科目では、授業でどのテーマを取り扱うのかについて、教員の裁量の幅が広い（コア科目やベーシック科目では、その分野の基礎的・体系的な内容を教えることが多いので、解説するテーマも自然と決まってくることが多い）ので、具体的にどのテーマを取り扱うのか、また、ケーススタディでどのケースを取り上げるのかについて悩んでいる回答が多かった。

また、学生の理解度に大きな差がある、との回答はコア、ベーシック、アドバンスのいずれでも比較的多かった。

設問3：この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

コア科目ではほとんどの授業で教員の当初の目標を達成しているが、ベーシック科目やアドバンスト科目ではあまり達成できなかったとする回答も多かった。あまり達成できなかったとの回答の多くは、教員が求める知識水準まで、学生が達していないことをその理由として挙げていた。

## 自己評価表の全体的傾向

アカウンティングスクールの担当科目自己評価表から観察される全体的な傾向を箇条書きでまとめると次のようになる。

- 講義形式の授業が多いコア科目やベーシック科目では、その分野の基礎的・体系的な

内容を取り扱い、また学生の授業の理解度を確認するためや、自学自習への動機づけのために小テストやレポート課題を複数回実施する授業が多い。また講義形式でも、積極的に学生に発言を求める教員が多い。

- アドバンスト科目では、学生自身が能動的に学習するよう、グループワークやグループディスカッションなど、演習形式の授業が多い。
- 実務や実例が重視される授業では、理論と実例とのバランス配分に苦慮している回答が多かった。特に、社会人学生と、学部から進学してきた学生が混在しているクラスで実務に関する授業を行う場合、社会人学生には常識的な知識であっても学部進学生には良く分からないことも多いので苦労しているようである。
- 受講生間で理解度や能力に大きな格差が生じており、授業の難易度や進む速さについて苦慮している回答が多かった。
- 双方向性のある授業を志向している教員が多かった。なお、質問を絶えず学生に投げかけたり、レポート課題を発表させたり、グループワークやグループディスカッションを導入したりなど、具体的な取り組み方は様々である。
- 会計士試験などの資格試験に直接関係してくる科目では、問題演習を盛んに実施している。

## 6. 残された課題

### A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

#### (1) 学生アンケート

2013年度の全科目群の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」のスコアは、通年で4.29、春学期が4.31、秋学期が4.26であり、十分に高い水準であると考えられる。通年での設問13の4.29というスコアは、過去の平均の4.33を少し下回っているものの、前年度の4.25を上回っている。

他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して、引き続き低い状況が続いている。2013年度の設問10のスコアは通年で4.00、設問11のスコアは、3.88であり、それぞれの過去の平均と同じレベルであった。学生の予習や復習などの学習を促すことについては、引き続き、各教員が努力していくべき分野である。

次に、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群のデータを分析すると、ベーシック科目群とアドバンスト科目群は、前年度や平均と比較すると、少し低めのスコアになっている。たとえば、ベーシック科目群の通年における設問 13 の満足度を問うスコアは、4.21 で前年度の 4.33、平均の 4.32 よりも、やや低い。また、アドバンスト科目群の通年における設問 13 は、2013 年度は 4.41 で、前年度の 4.47、平均の 4.48 よりも、やはり少し低いものとなっている。ベーシック科目群とアドバンスト科目群における全般的なスコアのレベルそのものは、依然として高いものであり、現段階では大きな問題であるとは考えにくい。今後とも継続してチェックしていく必要があるだろう。

## (2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価を、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて、各質問項目について課題を分析・考察した。

コア科目群について、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や自身も思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「学生の発言機会の増大」等、授業にいかにして学生の主体的な関与を促すかが課題となっている。また、ある科目では「できる人とできない人の差が大きいので、その溝を埋める工夫が必要」との指摘があった。

ベーシック科目群についても、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては「基礎学力不足の受講生に対する、懇切丁寧な指導」、「最新の話題を取り入れる」、「レクチャーが続くと受講生の集中力がとぎれがちになるので、ケースや演習方式を導入」した方が良いという意見があった。「授業開始時に小テストを実施する等して、事前に学生の力量を把握するように努めたい」との意見があった。また、「他教科との連携」といった事項を挙げる教員がいた。

アドバンスト科目群について、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「もっと積極的に討論を刺激していく工夫が必要であった」と感じる教員もいた。「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、グループディスカッションを増やすことを挙げる者がいた。また、インターネットやクロスメディアのケースをもっと増やす必要があると感じる教員もいた。エクセルを用いて演習の密度を向上させることを検討する教員もいた。

課題研究科目群について、「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて自身の思っていた目標は達成されたか」という問いに関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィールドワークに取り組ませたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の1ヶ月前になっても取り組めない人がある。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見や、「論文のできあがりという点で、目標を十分に達成できたとは思っていない」という意見もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「文献の探索について事前に徹底することが必要」といった研究手法の指導法に関するものや、個々の学生の発表時間の平準化や研究の進捗管理など時間マネジメント面での課題も指摘された。取り組み姿勢、分析能力等のばらつきが学生間にあり、課題研究を一週に複数回開催すること等の検討が必要との指摘があった。

## B. 経営戦略専攻国際経営コース

### (1) 学生アンケート

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね良好であり、過去2年間を上回っている。多くの質問項目の平均が4点台後半の高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

一方、比較的低い評価であったのは、質問4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が4.38、質問10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が4.48、質問11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が4.50であった。上記質問4の結果は、学生が実際にテキストを購入し事前に準備しているのか否かという疑問を提起させる。質問10、質問11は昨年も比較的low評価であったが、コースに対する学生の姿勢に対する評価である。これらの質問からわかるのは、学生の勉強意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では低いレベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉強意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったと考えられる。

また、コアよりはベーシックが上回っていることは過去の傾向と同じであるが、ベーシックよりアドバンスの方が、評価が若干低く推移している点は注目すべきである。このベーシックよりアドバンスの方が低い評価であることは、本年度が特異であったのか、学生

のコース選択と満足度のミスマッチが多かったのか不明であるが、今後の推移を見守りたい。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群で質問4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」の4.27、ベーシック科目群でも同じ質問で4.46、アドバンス科目群でも同じく質問4で4.39であった。この結果を分析してみると、学生がテキストブックや教員の教材をあまりつかっていないのではないかと前述の疑問をさらに強める結果となった。積極的に教員がテキストを購入するように指導し、授業のクイズに使用するなどで自主勉強を促すことを工夫しなければならないかもしれない。

## (2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、今後の改善点として、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良かったと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変であったという点などが注目される。学生の全体数が少ないおかげか教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。この傾向は昨年でも見られた。また、多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかとまどっているとの意見もあった。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度であるという点が強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンスコース選択の前のprerequisite化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを指導する必要があるのかもしれない。

本年度に全体コースの再編成が完成し、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が来年度から解消される。このカリキュラム改編後の評価結果を分析したうえで、制度の修正をどうすべきか判断すべきであろう。

## C. 会計専門職専攻

### (1) 学生アンケート

専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で安定的な推移をしてきた。2012年度と2013年度春学期には4.6となり、そして、2013年度秋学期には4.7と開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、2012年度を除いて、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみら

れる。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられることから、今後とも、注視する必要がある。また、2013年度は2012年度に引き続き高い値となっているが、以下で分析する科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを引き続き実践していくとともに、今後の動向を注視する必要がある。

科目群ごとの評価に目を向けると、まず、設問1から設問4の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はないが、設問5から設問8については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

設問5から設問8の評価などからは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。

設問11に関しては、設問4とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うべきであると考えられる。

以上より、授業の事前準備のなかで適切な教科書を選択し、配布資料を制作して、授業内容の水準と量（予習、復習、課題などを含む。）そして授業時間とのバランスを図り、より分析能力・批判力が涵養される授業を実践していくことの重要性を引き続き指摘できよう。

## （2）教員による担当科目自己評価

会計専門職専攻の所属教員に対する担当科目の自己評価から観察できる課題を科目群別に整理すると、おおよそ以下のようにまとめることができる。

設問2の「改善・工夫をした方がよい点」の設問についての回答は、コア科目では、理論の解説と問題演習の時間配分をどうすべきか、または、各トピックにどの程度の時間をかければ良いのか、など時間配分に関する回答が目立った。それに対し、学生の理解度を小テストやレポート課題などで常にチェックしながら、理解度の足りない分野は丁寧にしようとして模索している様子が見えられた。



アドバンスト科目では、授業でどのテーマを取り扱うのかについて、教員の裁量の幅が広い（コア科目やベーシック科目では、その分野の基礎的・体系的な内容を教えることが多いので、解説するテーマも自然と決まってくることが多いのに対し）ので、具体的にどのテーマを取り扱うのか、また、ケーススタディでどのケースを取り上げるのかについて悩んでいる回答が多かった。また、学生の理解度に大きな差がある、との回答はコア、ベーシック、アドバンスのいずれでも比較的多かった

設問3の「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」という設問に対する回答は、コア科目ではほとんどの授業で教員の当初の目標を達成しているが、ベーシック科目やアドバンスト科目ではあまり達成できなかったとする回答も多かった。あまり達成できなかったとの回答の多くは、教員が求める知識水準まで、学生が達していないことをその理由として挙げていた。

その他、自己評価表の全体的傾向からみる課題としては以下のものが指摘できる。

- ・実務や実例が重視される授業では、理論と実例とのバランス配分に苦慮している回答が多かった。特に、社会人学生と、学部から進学してきた学生が混在しているクラスで実務に関する授業を行う場合、社会人学生には常識的な知識であっても学部進学生には良く分からないことも多いので苦慮しているようである。
- ・受講生間で理解度や能力に大きな格差が生じており、授業の難易度や進む速さについて苦慮している回答が多かった。

なお、本研究科では、FD活動として、以下に紹介するFD研修会を開催するとともに、教員の研究活動、実務活動を『ビジネス&アカウンティング・レビュー』へ掲載することにより、教員の研鑽を促すような工夫をしてきた。

以下では、前者のFD研修について、テーマと講演者を記載する。

第1回 2013年10月23日

カリキュラム委員会終了後、専任教員・任期制教員全員を対象に以下のテーマで議論を行った。

- ・「統一テキスト」について
- ・「授業運営ノウハウ」共通化のメリット、デメリットについて
- ・過去のFDの取り組み（「外部講師」「授業参観」「ベストプラクティス」）について
- ・「必修科目」のあり方について
- ・授業科目担当者のローテーション（同一分野）について

第2回：2014年3月5日

教授会終了後、専任教員・任期制教員全員を対象に以下のテーマで議論を行った。

- ・ 専門職修士課程の教育方法のあり方について
- ・ 博士課程後期課程の教育方法のあり方について

今般の学生による授業評価アンケート、教員による担当科目自己評価や試験結果を再度吟味することにより、客観的な自己評価を継続していくことが期待される。また、そうした自己評価に加えて、FD活動も継続して行われることが期待される。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
自己評価委員会

コンビーナー 加藤 雄士

## 2013年度 授業評価アンケート実施授業科目一覧

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限
	経営戦略専攻 企業経営戦略コース				
97101001	企業倫理	1	田中 政光	金曜	6
97101001	企業倫理	1	田中 政光	金曜	7
97101002	企業倫理	2	田中 政光	金曜	6
97101002	企業倫理	2	田中 政光	金曜	7
97102001	経営学	1	小高 久仁子	月曜	6
97102001	経営学	1	小高 久仁子	月曜	7
97102002	経営学	2	鈴木 修	金曜	6
97102002	経営学	2	鈴木 修	金曜	7
97102003	経営学	3	田中 政光	金曜	6
97102003	経営学	3	田中 政光	金曜	7
97103001	会計学	1	石原 俊彦	土曜	1
97103001	会計学	1	石原 俊彦	土曜	2
97103002	会計学	2	石原 俊彦	月曜	6
97103002	会計学	2	石原 俊彦	月曜	7
97104001	経済学	1	新庄 浩二	木曜	6
97104001	経済学	1	新庄 浩二	木曜	7
97104002	経済学	2	新庄 浩二	木曜	6
97104002	経済学	2	新庄 浩二	木曜	7
97105001	統計学	1	羽室 行信	集中・その他	9
97105002	統計学	2	羽室 行信	火曜	6
97105002	統計学	2	羽室 行信	火曜	7
97105003	統計学	3	羽室 行信	集中・その他	9
97106001	英語コミュニケーション	1	シニア マーク	水曜	6
97106001	英語コミュニケーション	1	シニア マーク	水曜	7
97106002	英語コミュニケーション	2	シニア マーク	水曜	6
97106002	英語コミュニケーション	2	シニア マーク	水曜	7
97106003	英語コミュニケーション	3	シニア マーク	水曜	6
97106003	英語コミュニケーション	3	シニア マーク	水曜	7
97106004	英語コミュニケーション	4	シニア マーク	水曜	6
97106004	英語コミュニケーション	4	シニア マーク	水曜	7
97151001	経営戦略	1	小高 久仁子	月曜	6
97151001	経営戦略	1	小高 久仁子	月曜	7
97151002	経営戦略	2	小高 久仁子	木曜	6
97151002	経営戦略	2	小高 久仁子	木曜	7
97151003	経営戦略	3	小高 久仁子	木曜	6
97151003	経営戦略	3	小高 久仁子	木曜	7
97152101	人的資源管理	1	大内 章子	土曜	3
97152101	人的資源管理	1	大内 章子	土曜	4
97152102	人的資源管理	2	大内 章子	火曜	6
97152102	人的資源管理	2	大内 章子	火曜	7
97152500	組織行動		北居 明	火曜	6
97152500	組織行動		北居 明	火曜	7
97153001	マーケティング・マネジメント	1	佐藤 善信	月曜	6
97153001	マーケティング・マネジメント	1	佐藤 善信	月曜	7
97153002	マーケティング・マネジメント	2	藤本 寿良	金曜	6
97153002	マーケティング・マネジメント	2	藤本 寿良	金曜	7
97154001	ファイナンス	1	甲斐 良隆	月曜	6
97154001	ファイナンス	1	甲斐 良隆	月曜	7
97154002	ファイナンス	2	甲斐 良隆	土曜	3
97154002	ファイナンス	2	甲斐 良隆	土曜	4
97155001	企業ファイナンス	1	前田 祐治	金曜	6
97155001	企業ファイナンス	1	前田 祐治	金曜	7
97155002	企業ファイナンス	2	前田 祐治	木曜	6
97155002	企業ファイナンス	2	前田 祐治	木曜	7
97156000	管理会計		橋爪 健治	土曜	6
97156000	管理会計		橋爪 健治	土曜	7
97157000	財務諸表分析		橋爪 健治	土曜	6
97157000	財務諸表分析		橋爪 健治	土曜	7
97158001	テクノロジー・マネジメント	1	玉田 俊平太	集中・その他	9
97158002	テクノロジー・マネジメント	2	玉田 俊平太	火曜	6
97158002	テクノロジー・マネジメント	2	玉田 俊平太	火曜	7
97159000	情報システム		羽室 行信	金曜	6

97159000	情報システム		羽室 行信	金曜	7
97160000	生産システム		加藤 直樹	土曜	1
97160000	生産システム		加藤 直樹	土曜	2
97161001	ベンチャービジネス	1	定藤 繁樹	土曜	3
97161001	ベンチャービジネス	1	定藤 繁樹	土曜	4
97161002	ベンチャービジネス	2	定藤 繁樹	月曜	6
97161002	ベンチャービジネス	2	定藤 繁樹	月曜	7
97162000	行動科学		山本 昭二	土曜	6
97162000	行動科学		山本 昭二	土曜	7
97163000	統計分析論		羽室 行信	集中・その他	9
97163500	ゲーム理論		甲斐 良隆	月曜	6
97163500	ゲーム理論		甲斐 良隆	月曜	7
97165100	グローバル・エコノミー		中西 訓嗣	金曜	6
97165100	グローバル・エコノミー		中西 訓嗣	金曜	7
97165500	クリティカル・シンキング		佐藤 善信	火曜	6
97165500	クリティカル・シンキング		佐藤 善信	火曜	7
97166000	会社法		大和 正史	火曜	6
97166000	会社法		大和 正史	火曜	7
97167001	上級英語コミュニケーション	1	シーハン ジョセフ	土曜	3
97167001	上級英語コミュニケーション	1	シーハン ジョセフ	土曜	4
97167002	上級英語コミュニケーション	2	シーハン ジョセフ	土曜	3
97167002	上級英語コミュニケーション	2	シーハン ジョセフ	土曜	4
97201000	企業経営史		宮本 又郎	水曜	6
97201000	企業経営史		宮本 又郎	水曜	7
97202000	企業家論		宮本 又郎	水曜	6
97202000	企業家論		宮本 又郎	水曜	7
97203000	組織管理		田中 政光	金曜	6
97203000	組織管理		田中 政光	金曜	7
97203500	人材マネジメント		大内 章子	土曜	3
97203500	人材マネジメント		大内 章子	土曜	4
97204100	国際経営		吉原 英樹	水曜	6
97204100	国際経営		吉原 英樹	水曜	7
97206000	事業システム戦略論		金井 一頼	木曜	6
97206000	事業システム戦略論		金井 一頼	木曜	7
97207000	組織管理事例研究		未定	土曜	3
97207000	組織管理事例研究		未定	土曜	4
97208001	経営戦略事例研究	1	未定	土曜	3
97208001	経営戦略事例研究	1	未定	土曜	4
97208002	経営戦略事例研究	2	未定	土曜	3
97208002	経営戦略事例研究	2	未定	土曜	4
97209000	サービス・マーケティング		山本 昭二	水曜	6
97209000	サービス・マーケティング		山本 昭二	水曜	7
97210000	チャンネル・マネジメント		山本 昭二	月曜	6
97210000	チャンネル・マネジメント		山本 昭二	月曜	7
97211000	ブランド・マネジメント		森 一彦	土曜	6
97211000	ブランド・マネジメント		森 一彦	土曜	7
97212001	マーケティング・コミュニケーション	1	梅本 春夫	土曜	6
97212001	マーケティング・コミュニケーション	1	梅本 春夫	土曜	7
97212002	マーケティング・コミュニケーション	2	森 一彦	土曜	6
97212002	マーケティング・コミュニケーション	2	森 一彦	土曜	7
97213000	マーケティング戦略		佐藤 善信	集中・その他	9
97214000	流通システム		山本 昭二	月曜	6
97214000	流通システム		山本 昭二	月曜	7
97215000	消費者行動		徳山 美津恵	土曜	3
97215000	消費者行動		徳山 美津恵	土曜	4
97216000	ロジスティクス		伊藤 秀和	木曜	6
97216000	ロジスティクス		伊藤 秀和	木曜	7
97217000	国際マーケティング		藤沢 武史	木曜	6
97217000	国際マーケティング		藤沢 武史	木曜	7
97218000	マーケティング・リサーチ		高橋 広行	火曜	6
97218000	マーケティング・リサーチ		高橋 広行	火曜	7
97218500	Special Topics in Marketing		佐藤 善信	金曜	6
97218500	Special Topics in Marketing		佐藤 善信	金曜	7
97218500	Special Topics in Marketing		佐藤 善信	金曜	6
97218500	Special Topics in Marketing		佐藤 善信	金曜	7
97219000	金融工学		甲斐 良隆	木曜	6
97219000	金融工学		甲斐 良隆	木曜	7

97222000	証券投資		石橋 尚平	木曜	6
97222000	証券投資		石橋 尚平	木曜	7
97224000	金融商品		甲斐 良隆	月曜	6
97224000	金融商品		甲斐 良隆	月曜	7
97226000	リスクマネジメント		ジョン ホング	集中・その他	9
97230000	イノベーション経営		玉田 俊平太	集中・その他	9
97231000	製品開発		鈴木 修	金曜	6
97231000	製品開発		鈴木 修	金曜	7
97232000	データマイニング		羽室 行信	火曜	6
97232000	データマイニング		羽室 行信	火曜	7
97233000	製品開発事例研究		隅 謙造	土曜	6
97233000	製品開発事例研究		隅 謙造	土曜	7
97233100	標準化経営戦略		松本 隆	土曜	3
97233100	標準化経営戦略		松本 隆	土曜	4
97234000	アントレプレナーシップ		定藤 繁樹	土曜	3
97234000	アントレプレナーシップ		定藤 繁樹	土曜	4
97237000	ベンチャービジネス事例研究		西本 凌	火曜	6
97237000	ベンチャービジネス事例研究		西本 凌	火曜	7
97237300	新規事業計画		西本 凌	火曜	6
97237300	新規事業計画		西本 凌	火曜	7
97237600	中小企業経営革新		西本 凌	火曜	6
97237600	中小企業経営革新		西本 凌	火曜	7
97238000	企業倫理事例研究		石田 寛	月曜	6
97238000	企業倫理事例研究		石田 寛	月曜	7
97241000	知的財産権法		小南 典子	土曜	3
97241000	知的財産権法		小南 典子	土曜	4
97241100	研究開発型ベンチャー創成		定藤 繁樹	集中・その他	9
97243000	企業経営戦略特論B		古庄 宏臣	金曜	6
97243000	企業経営戦略特論B		古庄 宏臣	金曜	7
97244200	企業経営戦略特論D		村上 路一	水曜	6
97244200	企業経営戦略特論D		村上 路一	水曜	7
97244400	企業経営戦略特論E		甲斐 良隆	土曜	3
97244400	企業経営戦略特論E		甲斐 良隆	土曜	4
97244600	企業経営戦略特論F		登坂 一博	集中・その他	9
97244700	企業経営戦略特論G		児玉 文雄	土曜	3
97244700	企業経営戦略特論G		児玉 文雄	土曜	4
97245001	課題研究基礎	1	大内 章子	土曜	3
97245001	課題研究基礎	1	大内 章子	土曜	4
97245002	課題研究基礎	2	小高 久仁子	集中・その他	9
97245003	課題研究基礎	3	甲斐 良隆	集中・その他	9
97245004	課題研究基礎	4	定藤 繁樹	土曜	3
97245004	課題研究基礎	4	定藤 繁樹	土曜	4
97245005	課題研究基礎	5	佐藤 善信	集中・その他	9
97245006	課題研究基礎	6	田中 政光	土曜	3
97245006	課題研究基礎	6	田中 政光	土曜	4
97245007	課題研究基礎	7	山本 昭二	集中・その他	9
97246001	課題研究	1	大内 章子	土曜	1
97246001	課題研究	1	大内 章子	土曜	2
97246002	課題研究	2	大内 章子	土曜	1
97246002	課題研究	2	大内 章子	土曜	2
97246003	課題研究	3	小高 久仁子	土曜	1
97246003	課題研究	3	小高 久仁子	土曜	2
97246004	課題研究	4	小高 久仁子	土曜	1
97246004	課題研究	4	小高 久仁子	土曜	2
97246005	課題研究	5	甲斐 良隆	土曜	1
97246005	課題研究	5	甲斐 良隆	土曜	2
97246006	課題研究	6	甲斐 良隆	土曜	1
97246006	課題研究	6	甲斐 良隆	土曜	2
97246007	課題研究	7	定藤 繁樹	土曜	1
97246007	課題研究	7	定藤 繁樹	土曜	2
97246008	課題研究	8	定藤 繁樹	土曜	1
97246008	課題研究	8	定藤 繁樹	土曜	2
97246009	課題研究	9	佐藤 善信	集中・その他	9
97246010	課題研究	10	田中 政光	土曜	1
97246010	課題研究	10	田中 政光	土曜	2
97246011	課題研究	11	田中 政光	土曜	1
97246011	課題研究	11	田中 政光	土曜	2

97246012	課題研究	12	玉田 俊平太	集中・その他	9
97246013	課題研究	13	玉田 俊平太	集中・その他	9
97246014	課題研究	14	羽室 行信	集中・その他	9
97246015	課題研究	15	羽室 行信	集中・その他	9
97246016	課題研究	16	山本 昭二	土曜	1
97246016	課題研究	16	山本 昭二	土曜	2
97246017	課題研究	17	山本 昭二	土曜	1
97246017	課題研究	17	山本 昭二	土曜	2
	<b>経営戦略専攻 国際経営コース</b>				
97301001	Business Ethics	1	石田 寛	月曜	1
97301001	Business Ethics	1	石田 寛	月曜	2
97301002	Business Ethics	2	石田 寛	月曜	1
97301002	Business Ethics	2	石田 寛	月曜	2
97302001	Management	1	鈴木 修	月曜	2
97302001	Management	1	鈴木 修	木曜	2
97302002	Management	2	鈴木 修	月曜	4
97302002	Management	2	鈴木 修	木曜	4
97303001	Accounting for Decision Making	1	李 貞希	金曜	1
97303001	Accounting for Decision Making	1	李 貞希	金曜	2
97303002	Accounting for Decision Making	2	児島 幸治	水曜	1
97303002	Accounting for Decision Making	2	児島 幸治	水曜	2
97304001	Business Economics	1	油谷 博司	月曜	5
97304001	Business Economics	1	油谷 博司	木曜	5
97304002	Business Economics	2	油谷 博司	月曜	2
97304002	Business Economics	2	油谷 博司	木曜	2
97305001	Statistics	1	竹澤 直哉	火曜	2
97305001	Statistics	1	竹澤 直哉	火曜	3
97305002	Statistics	2	前田 祐治	月曜	3
97305002	Statistics	2	前田 祐治	木曜	3
97306001	English Communication	1	シニア マーク	水曜	3
97306001	English Communication	1	シニア マーク	水曜	4
97306002	English Communication	2	シニア マーク	水曜	3
97306002	English Communication	2	シニア マーク	水曜	4
97351000	Making Ethical Decisions		石田 寛	月曜	5
97351000	Making Ethical Decisions		石田 寛	月曜	6
97352000	Corporate Strategy		メッセイ デヴィッド	月曜	3
97352000	Corporate Strategy		メッセイ デヴィッド	木曜	2
97352000	Corporate Strategy		メッセイ デヴィッド	木曜	3
97353000	Designing Organizational Systems		鈴木 修	火曜	3
97353000	Designing Organizational Systems		鈴木 修	火曜	4
97353000	Designing Organizational Systems		鈴木 修	金曜	4
97354001	International Management	1	メッセイ デヴィッド	月曜	3
97354001	International Management	1	メッセイ デヴィッド	木曜	3
97354001	International Management	1	メッセイ デヴィッド	木曜	4
97354002	International Management	2	メッセイ デヴィッド	月曜	3
97354002	International Management	2	メッセイ デヴィッド	木曜	2
97354002	International Management	2	メッセイ デヴィッド	木曜	3
97355000	Leadership and Corporate Renewal		メッセイ デヴィッド	月曜	4
97355000	Leadership and Corporate Renewal		メッセイ デヴィッド	木曜	3
97355000	Leadership and Corporate Renewal		メッセイ デヴィッド	木曜	4
97356001	Marketing Management	1	アハマド ノーリア	月曜	3
97356001	Marketing Management	1	アハマド ノーリア	月曜	4
97356001	Marketing Management	1	アハマド ノーリア	木曜	4
97356002	Marketing Management	2	アハマド ノーリア	月曜	4
97356002	Marketing Management	2	アハマド ノーリア	木曜	4
97356002	Marketing Management	2	アハマド ノーリア	木曜	5
97357000	Marketing Strategy		佐藤 善信	金曜	3
97357000	Marketing Strategy		佐藤 善信	金曜	4
97358001	Principles of Finance	1	油谷 博司	火曜	4
97358001	Principles of Finance	1	油谷 博司	金曜	3
97358001	Principles of Finance	1	油谷 博司	金曜	4
97358002	Principles of Finance	2	油谷 博司	火曜	3
97358002	Principles of Finance	2	油谷 博司	金曜	3
97358002	Principles of Finance	2	油谷 博司	金曜	4
97359001	Corporate Finance	1	前田 祐治	月曜	2
97359001	Corporate Finance	1	前田 祐治	木曜	2
97359002	Corporate Finance	2	前田 祐治	月曜	2

97359002	Corporate Finance	2	前田 祐治	木曜	2
97360001	Financial Reporting and Analysis	1	李 貞希	火曜	1
97360001	Financial Reporting and Analysis	1	李 貞希	火曜	2
97360002	Financial Reporting and Analysis	2	アデカリー B. K.	火曜	1
97360002	Financial Reporting and Analysis	2	アデカリー B. K.	火曜	2
97361000	Japanese Economy		新庄 浩二	水曜	1
97361000	Japanese Economy		新庄 浩二	水曜	2
97362000	Advanced English for Business Studies		シーハン ジョセフ	土曜	3
97362000	Advanced English for Business Studies		シーハン ジョセフ	土曜	4
97363000	Advanced English for Business Practice		シーハン ジョセフ	土曜	3
97363000	Advanced English for Business Practice		シーハン ジョセフ	土曜	4
97401000	Technology Management		メッセイ デヴィッド	木曜	4
97401000	Technology Management		メッセイ デヴィッド	木曜	5
97404000	Organizational Behavior		鈴木 修	火曜	3
97404000	Organizational Behavior		鈴木 修	火曜	4
97405000	Human Resource Management		関口 倫紀	火曜	3
97405000	Human Resource Management		関口 倫紀	火曜	4
97405100	Business Negotiation		シーハン ジョセフ	土曜	1
97405100	Business Negotiation		シーハン ジョセフ	土曜	2
97405200	Information Management for Decision Making		フセイニ ジャフアー	火曜	3
97405200	Information Management for Decision Making		フセイニ ジャフアー	土曜	3
97406000	Marketing Research		中西 正雄	月曜	4
97406000	Marketing Research		中西 正雄	木曜	4
97407000	Marketing Case Analysis		アハマド ノーリア	木曜	2
97407000	Marketing Case Analysis		アハマド ノーリア	木曜	3
97408000	Product Innovation		玉田 俊平太	火曜	6
97408000	Product Innovation		玉田 俊平太	火曜	7
97408000	Product Innovation		玉田 俊平太	火曜	6
97408000	Product Innovation		玉田 俊平太	火曜	7
97409000	International Marketing Practice		グルーベル M. J.	火曜	2
97409000	International Marketing Practice		グルーベル M. J.	金曜	2
97410000	Brand Management		児玉 洋典	火曜	3
97410000	Brand Management		児玉 洋典	火曜	4
97411001	Marketing Communication	1	北村 秀実	金曜	4
97411001	Marketing Communication	1	北村 秀実	金曜	5
97411002	Marketing Communication	2	児玉 洋典	火曜	3
97411002	Marketing Communication	2	児玉 洋典	火曜	4
97411100	Service Marketing		アハマド ノーリア	月曜	3
97411100	Service Marketing		アハマド ノーリア	月曜	4
97412000	Financial Risk Management		前田 祐治	月曜	3
97412000	Financial Risk Management		前田 祐治	木曜	3
97414000	Capital Markets		油谷 博司	金曜	3
97414000	Capital Markets		油谷 博司	金曜	4
97416000	Portfolio Management		ジョン ホング	集中・その他	9
97418000	International Accounting		梶原 晃	土曜	1
97418000	International Accounting		梶原 晃	土曜	2
97419000	Managerial Accounting		徳崎 進	火曜	4
97419000	Managerial Accounting		徳崎 進	火曜	5
97419100	Asian Financial Market		油谷 博司	金曜	3
97419100	Asian Financial Market		油谷 博司	金曜	4
97419300	Accounting Theory and Practice		児島 幸治	水曜	3
97419300	Accounting Theory and Practice		児島 幸治	水曜	4
97420000	Management Information Systems		宗平 順己	土曜	1
97420000	Management Information Systems		宗平 順己	土曜	2
97422000	Japanese Business		石井 竜馬	水曜	3
97422000	Japanese Business		石井 竜馬	水曜	4
97423000	Practitioner Perspectives on Management		冬野 勝紀	火曜	2
97423000	Practitioner Perspectives on Management		冬野 勝紀	金曜	2
97424000	Advanced Topics in Business A		アハマド ノーリア	月曜	3
97424000	Advanced Topics in Business A		アハマド ノーリア	月曜	4
97425000	Advanced Topics in Business B		北村 秀実	金曜	6
97425000	Advanced Topics in Business B		北村 秀実	金曜	7
97426000	Advanced Topics in Business C		小田部 正明	集中・その他	9
97428000	Advanced Topics in Business E		フセイニ ジャフアー	火曜	5
97428000	Advanced Topics in Business E		フセイニ ジャフアー	土曜	5
97428500	Advanced Topics in Business F		メッセイ デヴィッド	土曜	3
97428500	Advanced Topics in Business F		メッセイ デヴィッド	土曜	4

97429001	Group Research Project	1	アハマド ノーリア	木曜	3
97429001	Group Research Project	1	アハマド ノーリア	木曜	4
97429002	Group Research Project	2	油谷 博司	金曜	1
97429002	Group Research Project	2	油谷 博司	金曜	2
97429003	Group Research Project	3	メッセイ デヴィッド	月曜	4
97429003	Group Research Project	3	メッセイ デヴィッド	月曜	5
97429004	Group Research Project	4	鈴木 修	木曜	1
97429004	Group Research Project	4	鈴木 修	木曜	2
97429005	Group Research Project	5	油谷 博司	月曜	1
97429005	Group Research Project	5	油谷 博司	木曜	1
97430001	Individual Research	1	アハマド ノーリア	月曜	1
97430001	Individual Research	1	アハマド ノーリア	月曜	2
97430002	Individual Research	2	アハマド ノーリア	月曜	1
97430002	Individual Research	2	アハマド ノーリア	月曜	2
97430003	Individual Research	3	李 貞希	火曜	3
97430003	Individual Research	3	李 貞希	火曜	4
97430004	Individual Research	4	李 貞希	火曜	3
97430004	Individual Research	4	李 貞希	火曜	4
97430005	Individual Research	5	前田 祐治	月曜	1
97430005	Individual Research	5	前田 祐治	木曜	1
97430006	Individual Research	6	前田 祐治	月曜	1
97430006	Individual Research	6	前田 祐治	木曜	1
97430007	Individual Research	7	メッセイ デヴィッド	月曜	1
97430007	Individual Research	7	メッセイ デヴィッド	木曜	1
97430008	Individual Research	8	メッセイ デヴィッド	月曜	1
97430008	Individual Research	8	メッセイ デヴィッド	木曜	1
97430009	Individual Research	9	中西 正雄	水曜	3
97430009	Individual Research	9	中西 正雄	水曜	4
97430010	Individual Research	10	中西 正雄	水曜	3
97430010	Individual Research	10	中西 正雄	水曜	4
97430011	Individual Research	11	鈴木 修	金曜	1
97430011	Individual Research	11	鈴木 修	金曜	2
97430012	Individual Research	12	鈴木 修	金曜	1
97430012	Individual Research	12	鈴木 修	金曜	2
97430013	Individual Research	13	油谷 博司	火曜	1
97430013	Individual Research	13	油谷 博司	火曜	2
97430014	Individual Research	14	油谷 博司	火曜	1
97430014	Individual Research	14	油谷 博司	火曜	2
	<b>会計専門職専攻</b>				
97511001	国際会計論	1	杉本 徳栄	金曜	3
97511001	国際会計論	1	杉本 徳栄	金曜	4
97511002	国際会計論	2	杉本 徳栄	土曜	1
97511002	国際会計論	2	杉本 徳栄	土曜	2
97511003	国際会計論	3	杉本 徳栄	火曜	3
97511003	国際会計論	3	杉本 徳栄	火曜	4
97511004	国際会計論	4	杉本 徳栄	土曜	1
97511004	国際会計論	4	杉本 徳栄	土曜	2
97513001	簿記基礎	1	加藤 雄士	土曜	3
97513001	簿記基礎	1	加藤 雄士	土曜	4
97513002	簿記基礎	2	加藤 雄士	土曜	3
97513002	簿記基礎	2	加藤 雄士	土曜	4
97514001	簿記	1	中島 稔哲	木曜	6
97514001	簿記	1	中島 稔哲	木曜	7
97514002	簿記	2	中島 稔哲	木曜	1
97514002	簿記	2	中島 稔哲	木曜	2
97514003	簿記	3	中島 稔哲	土曜	5
97514003	簿記	3	中島 稔哲	土曜	6
97514004	簿記	4	中島 稔哲	木曜	1
97514004	簿記	4	中島 稔哲	木曜	2
97514601	会計学	1	中島 稔哲	土曜	5
97514601	会計学	1	中島 稔哲	土曜	6
97514602	会計学	2	中島 稔哲	土曜	3
97514602	会計学	2	中島 稔哲	土曜	4
97516001	財務会計論	1	山地 範明	土曜	1
97516001	財務会計論	1	山地 範明	土曜	2
97516002	財務会計論	2	山地 範明	火曜	1
97516002	財務会計論	2	山地 範明	火曜	2



97516003	財務會計論	3	山地 範明	土曜	1
97516003	財務會計論	3	山地 範明	土曜	2
97516004	財務會計論	4	山地 範明	月曜	1
97516004	財務會計論	4	山地 範明	月曜	2
97532001	管理會計論	1	徳崎 進	火曜	1
97532001	管理會計論	1	徳崎 進	火曜	2
97532002	管理會計論	2	徳崎 進	金曜	6
97532002	管理會計論	2	徳崎 進	金曜	7
97532003	管理會計論	3	徳崎 進	金曜	1
97532003	管理會計論	3	徳崎 進	金曜	2
97532004	管理會計論	4	徳崎 進	土曜	1
97532004	管理會計論	4	徳崎 進	土曜	2
97532501	工業簿記基礎	1	引地 夏奈子	月曜	3
97532501	工業簿記基礎	1	引地 夏奈子	月曜	4
97532502	工業簿記基礎	2	引地 夏奈子	月曜	3
97532502	工業簿記基礎	2	引地 夏奈子	月曜	4
97533501	工業簿記	1	緒方 勇	木曜	3
97533501	工業簿記	1	緒方 勇	木曜	4
97533502	工業簿記	2	緒方 勇	土曜	1
97533502	工業簿記	2	緒方 勇	土曜	2
97534001	原価計算論	1	緒方 勇	土曜	5
97534001	原価計算論	1	緒方 勇	土曜	6
97534002	原価計算論	2	緒方 勇	土曜	3
97534002	原価計算論	2	緒方 勇	土曜	4
97534003	原価計算論	3	緒方 勇	月曜	1
97534003	原価計算論	3	緒方 勇	月曜	2
97534004	原価計算論	4	緒方 勇	土曜	3
97534004	原価計算論	4	緒方 勇	土曜	4
97551001	会計倫理	1	西尾 宇一郎	土曜	3
97551001	会計倫理	1	西尾 宇一郎	土曜	4
97551002	会計倫理	2	西尾 宇一郎	土曜	5
97551002	会計倫理	2	西尾 宇一郎	土曜	6
97551003	会計倫理	3	西尾 宇一郎	木曜	3
97551003	会計倫理	3	西尾 宇一郎	木曜	4
97551004	会計倫理	4	西尾 宇一郎	木曜	6
97551004	会計倫理	4	西尾 宇一郎	木曜	7
97552001	監査論	1	上田 耕治	木曜	1
97552001	監査論	1	上田 耕治	木曜	2
97552002	監査論	2	上田 耕治	土曜	1
97552002	監査論	2	上田 耕治	土曜	2
97552003	監査論	3	上田 耕治	木曜	3
97552003	監査論	3	上田 耕治	木曜	4
97552004	監査論	4	上田 耕治	土曜	3
97552004	監査論	4	上田 耕治	土曜	4
97561000	経済学		三木 潤一	木曜	1
97561000	経済学		三木 潤一	木曜	2
97562001	経営学	1	加藤 雄士	土曜	1
97562001	経営学	1	加藤 雄士	土曜	2
97562002	経営学	2	加藤 雄士	土曜	1
97562002	経営学	2	加藤 雄士	土曜	2
97563001	I T基礎	1	吉川 郁夫	金曜	1
97563001	I T基礎	1	吉川 郁夫	金曜	2
97563002	I T基礎	2	吉川 郁夫	木曜	6
97563002	I T基礎	2	吉川 郁夫	木曜	7
97580501	企業法基礎	1	池島 真策	月曜	6
97580501	企業法基礎	1	池島 真策	月曜	7
97580502	企業法基礎	2	池島 真策	月曜	6
97580502	企業法基礎	2	池島 真策	月曜	7
97581001	企業法	1	岡本 智英子	月曜	3
97581001	企業法	1	岡本 智英子	月曜	4
97581002	企業法	2	岡本 智英子	月曜	6
97581002	企業法	2	岡本 智英子	月曜	7
97581003	企業法	3	岡本 智英子	月曜	1
97581003	企業法	3	岡本 智英子	月曜	2
97581004	企業法	4	岡本 智英子	月曜	6
97581004	企業法	4	岡本 智英子	月曜	7
97582001	租税法基礎	1	西尾 宇一郎	金曜	3

97582001	租税法基礎	1	西尾 宇一郎	金曜	4
97582002	租税法基礎	2	西尾 宇一郎	土曜	5
97582002	租税法基礎	2	西尾 宇一郎	土曜	6
97583001	法人税法	1	西尾 宇一郎	金曜	3
97583001	法人税法	1	西尾 宇一郎	金曜	4
97583002	法人税法	2	西尾 宇一郎	土曜	3
97583002	法人税法	2	西尾 宇一郎	土曜	4
97584000	地方税基礎		横山 直子	土曜	1
97584000	地方税基礎		横山 直子	土曜	2
97611001	簿記応用	1	山地 範明	月曜	1
97611001	簿記応用	1	山地 範明	月曜	2
97611002	簿記応用	2	山地 範明	金曜	6
97611002	簿記応用	2	山地 範明	金曜	7
97612001	会計基準論	1	中島 稔哲	金曜	1
97612001	会計基準論	1	中島 稔哲	金曜	2
97612002	会計基準論	2	中島 稔哲	金曜	6
97612002	会計基準論	2	中島 稔哲	金曜	7
97613101	国際会計基準論A	1	杉本 徳栄	金曜	6
97613101	国際会計基準論A	1	杉本 徳栄	金曜	7
97613102	国際会計基準論A	2	杉本 徳栄	金曜	3
97613102	国際会計基準論A	2	杉本 徳栄	金曜	4
97613501	国際会計基準論B	1	杉本 徳栄	土曜	3
97613501	国際会計基準論B	1	杉本 徳栄	土曜	4
97613502	国際会計基準論B	2	杉本 徳栄	火曜	3
97613502	国際会計基準論B	2	杉本 徳栄	火曜	4
97614001	連結財務諸表論	1	山地 範明	月曜	1
97614001	連結財務諸表論	1	山地 範明	月曜	2
97614002	連結財務諸表論	2	山地 範明	火曜	6
97614002	連結財務諸表論	2	山地 範明	火曜	7
97615001	会計制度論	1	石田 昭	火曜	3
97615001	会計制度論	1	石田 昭	火曜	4
97615002	会計制度論	2	石田 昭	土曜	1
97615002	会計制度論	2	石田 昭	土曜	2
97616001	国際公会計論	1	稲澤 克祐	土曜	3
97616001	国際公会計論	1	稲澤 克祐	土曜	4
97616002	国際公会計論	2	稲澤 克祐	集中・その他	9
97619001	公会計論	1	稲澤 克祐	土曜	1
97619001	公会計論	1	稲澤 克祐	土曜	2
97619002	公会計論	2	稲澤 克祐	火曜	6
97619002	公会計論	2	稲澤 克祐	火曜	7
97631000	予算管理論		徳崎 進	火曜	3
97631000	予算管理論		徳崎 進	火曜	4
97632101	原価管理論	1	玉置 求己	土曜	5
97632101	原価管理論	1	玉置 求己	土曜	6
97632102	原価管理論	2	玉置 求己	土曜	5
97632102	原価管理論	2	玉置 求己	土曜	6
97633001	財務分析	1	前原 啓二	水曜	6
97633001	財務分析	1	前原 啓二	水曜	7
97633002	財務分析	2	前原 啓二	金曜	6
97633002	財務分析	2	前原 啓二	金曜	7
97651001	監査制度論	1	上田 耕治	土曜	5
97651001	監査制度論	1	上田 耕治	土曜	6
97651002	監査制度論	2	上田 耕治	木曜	3
97651002	監査制度論	2	上田 耕治	木曜	4
97651500	監査概念論		吉川 郁夫	水曜	1
97651500	監査概念論		吉川 郁夫	水曜	2
97652001	監査基準論	1	野呂 貴生	土曜	5
97652001	監査基準論	1	野呂 貴生	土曜	6
97652002	監査基準論	2	野呂 貴生	土曜	5
97652002	監査基準論	2	野呂 貴生	土曜	6
97653001	国際監査論	1	石田 昭	木曜	6
97653001	国際監査論	1	石田 昭	木曜	7
97653002	国際監査論	2	石田 昭	火曜	1
97653002	国際監査論	2	石田 昭	火曜	2
97661000	経済政策		未定	集中・その他	9
97662000	財政学		三木 潤一	水曜	6
97662000	財政学		三木 潤一	水曜	7

97663000	統計学		甲斐 良隆	木曜	3
97663000	統計学		甲斐 良隆	木曜	4
97664000	ファイナンス		甲斐 良隆	木曜	3
97664000	ファイナンス		甲斐 良隆	木曜	4
97665001	経営管理論	1	加藤 雄士	土曜	3
97665001	経営管理論	1	加藤 雄士	土曜	4
97665002	経営管理論	2	加藤 雄士	土曜	1
97665002	経営管理論	2	加藤 雄士	土曜	2
97667001	経営財務論	1	加藤 雄士	土曜	1
97667001	経営財務論	1	加藤 雄士	土曜	2
97667002	経営財務論	2	加藤 雄士	土曜	3
97667002	経営財務論	2	加藤 雄士	土曜	4
97668001	ビジネスコミュニケーション	1	シニア マーク	水曜	3
97668001	ビジネスコミュニケーション	1	シニア マーク	水曜	4
97668002	ビジネスコミュニケーション	2	シニア マーク	水曜	3
97668002	ビジネスコミュニケーション	2	シニア マーク	水曜	4
97669001	行政経営論	1	石原 俊彦	土曜	3
97669001	行政経営論	1	石原 俊彦	土曜	4
97669002	行政経営論	2	石原 俊彦	土曜	3
97669002	行政経営論	2	石原 俊彦	土曜	4
97669500	I T統制		畠山 隆雄	土曜	5
97669500	I T統制		畠山 隆雄	土曜	6
97681001	民法	1	松野 友芳	金曜	3
97681001	民法	1	松野 友芳	金曜	4
97681002	民法	2	松野 友芳	土曜	1
97681002	民法	2	松野 友芳	土曜	2
97682001	商法	1	岡本 智英子	土曜	3
97682001	商法	1	岡本 智英子	土曜	4
97682002	商法	2	岡本 智英子	火曜	1
97682002	商法	2	岡本 智英子	火曜	2
97683001	会社法	1	岡本 智英子	土曜	1
97683001	会社法	1	岡本 智英子	土曜	2
97683002	会社法	2	岡本 智英子	月曜	1
97683002	会社法	2	岡本 智英子	月曜	2
97685001	金融商品取引法	1	石田 眞得	火曜	6
97685001	金融商品取引法	1	石田 眞得	火曜	7
97685002	金融商品取引法	2	石田 眞得	火曜	3
97685002	金融商品取引法	2	石田 眞得	火曜	4
97686001	所得税法・消費税法	1	井村 登	集中・その他	9
97686002	所得税法・消費税法	2	井村 登	月曜	6
97686002	所得税法・消費税法	2	井村 登	月曜	7
97711500	英文会計		前原 啓二	水曜	6
97711500	英文会計		前原 啓二	水曜	7
97713000	中小会社会計論		前原 啓二	水曜	6
97713000	中小会社会計論		前原 啓二	水曜	7
97714000	環境会計論		阪 智香	木曜	3
97714000	環境会計論		阪 智香	木曜	4
97715000	地方自治体財務会計論		石原 俊彦	集中・その他	9
97715500	地方公営企業会計論		菊池 明敏	集中・その他	9
97716500	非営利法人会計論		稲澤 克祐	土曜	1
97716500	非営利法人会計論		稲澤 克祐	土曜	2
97717500	簿記課題研究		中島 稔哲	火曜	3
97717500	簿記課題研究		中島 稔哲	火曜	4
97718500	財務会計課題研究		山地 範明	月曜	3
97718500	財務会計課題研究		山地 範明	月曜	4
97719000	公会計課題研究		稲澤 克祐	土曜	3
97719000	公会計課題研究		稲澤 克祐	土曜	4
97720500	公会計事例研究		藤島 昇	土曜	3
97720500	公会計事例研究		藤島 昇	土曜	4
97721000	企業内容開示論		上田 耕治	火曜	6
97721000	企業内容開示論		上田 耕治	火曜	7
97722000	ビジネス会計論		山地 範明	木曜	6
97722000	ビジネス会計論		山地 範明	木曜	7
97723000	財務会計論文指導I		杉本 徳栄	火曜	6
97723500	財務会計論文指導II		杉本 徳栄	火曜	6
97724000	財務会計論文指導III		杉本 徳栄	火曜	7
97724500	財務会計論文指導IV		杉本 徳栄	火曜	7

97731001	意思決定会計論	1	徳崎 進	土曜	1
97731001	意思決定会計論	1	徳崎 進	土曜	2
97731002	意思決定会計論	2	徳崎 進	木曜	1
97731002	意思決定会計論	2	徳崎 進	木曜	2
97731501	業績評価会計論	1	徳崎 進	月曜	3
97731501	業績評価会計論	1	徳崎 進	月曜	4
97731502	業績評価会計論	2	徳崎 進	木曜	6
97731502	業績評価会計論	2	徳崎 進	木曜	7
97732000	会計情報システム		畠山 隆雄	土曜	5
97732000	会計情報システム		畠山 隆雄	土曜	6
97733000	地方自治体原価計算論		遠藤 尚秀	土曜	5
97733000	地方自治体原価計算論		遠藤 尚秀	土曜	6
97734000	地方自治体管理会計論		石原 俊彦	土曜	1
97734000	地方自治体管理会計論		石原 俊彦	土曜	2
97735000	地方自治体予算管理論		稲澤 克祐	土曜	3
97735000	地方自治体予算管理論		稲澤 克祐	土曜	4
97735500	地方自治体財務分析		藤島 昇	土曜	3
97735500	地方自治体財務分析		藤島 昇	土曜	4
97736000	管理会計課題研究		緒方 勇	木曜	6
97736000	管理会計課題研究		緒方 勇	木曜	7
97736500	原価計算課題研究		玉置 求己	水曜	6
97736500	原価計算課題研究		玉置 求己	水曜	7
97737000	管理会計事例研究		徳崎 進	月曜	6
97737000	管理会計事例研究		徳崎 進	月曜	7
97737501	管理会計特別講義A	1	浜田 和樹	月曜	3
97737501	管理会計特別講義A	1	浜田 和樹	月曜	4
97737502	管理会計特別講義A	2	浜田 和樹	木曜	1
97737502	管理会計特別講義A	2	浜田 和樹	木曜	2
97751501	内部統制論	1	石田 昭	火曜	3
97751501	内部統制論	1	石田 昭	火曜	4
97751502	内部統制論	2	石田 昭	土曜	5
97751502	内部統制論	2	石田 昭	土曜	6
97752500	システム監査		畠山 隆雄	土曜	5
97752500	システム監査		畠山 隆雄	土曜	6
97752901	内部監査論	1	石田 昭	月曜	6
97752901	内部監査論	1	石田 昭	月曜	7
97752902	内部監査論	2	石田 昭	火曜	3
97752902	内部監査論	2	石田 昭	火曜	4
97754000	地方自治体監査論		石原 俊彦	土曜	1
97754000	地方自治体監査論		石原 俊彦	土曜	2
97754500	行政評価論		稲澤 克祐	土曜	5
97754500	行政評価論		稲澤 克祐	土曜	6
97755500	監査課題研究		上田 耕治	木曜	3
97755500	監査課題研究		上田 耕治	木曜	4
97761000	地方財政論		稲澤 克祐	土曜	1
97761000	地方財政論		稲澤 克祐	土曜	2
97762500	企業ファイナンス		徳崎 進	木曜	6
97762500	企業ファイナンス		徳崎 進	木曜	7
97763500	組織管理		山中 俊之	金曜	6
97763500	組織管理		山中 俊之	金曜	7
97765001	コーポレート・ガバナンス	1	伊藤 達也	集中・その他	9
97765002	コーポレート・ガバナンス	2	伊藤 達也	集中・その他	9
97766500	地方自治体ファイナンス		瀬崎 陵	集中・その他	9
97767500	地方自治体マーケティング		武久 顕也	金曜	6
97767500	地方自治体マーケティング		武久 顕也	金曜	7
97768501	行政経営事例研究	1	藤島 昇	集中・その他	9
97768502	行政経営事例研究	2	武久 顕也	金曜	6
97768502	行政経営事例研究	2	武久 顕也	金曜	7
97769000	地方自治体人事管理論		山中 俊之	土曜	5
97769000	地方自治体人事管理論		山中 俊之	土曜	6
97769501	海外行政経営事情	1	石原 俊彦	集中・その他	9
97769502	海外行政経営事情	2	石原 俊彦	集中・その他	9
97770000	地方自治体人材開発論		山中 俊之	土曜	1
97770000	地方自治体人材開発論		山中 俊之	土曜	2
97770500	地方自治体組織論		山之内 稔	集中・その他	9
97771500	経営学課題研究		加藤 雄士	金曜	6
97771500	経営学課題研究		加藤 雄士	金曜	7

97772500	経営学特別講義A		武久 顕也	集中・その他	9
97782000	知的財産権法		諏訪野 大	水曜	6
97782000	知的財産権法		諏訪野 大	水曜	7
97782500	信託法		杉浦 宣彦	集中・その他	9
97783501	企業法要説	1	朝沼 晃	水曜	3
97783501	企業法要説	1	朝沼 晃	水曜	4
97783502	企業法要説	2	朝沼 晃	水曜	6
97783502	企業法要説	2	朝沼 晃	水曜	7
97783503	企業法要説	3	朝沼 晃	水曜	3
97783503	企業法要説	3	朝沼 晃	水曜	4
97785500	租税法課題研究		西尾 宇一郎	金曜	3
97785500	租税法課題研究		西尾 宇一郎	金曜	4
97786500	企業法課題研究		岡本 智英子	月曜	1
97786500	企業法課題研究		岡本 智英子	月曜	2
97787500	租税法事例研究		井村 登	月曜	6
97787500	租税法事例研究		井村 登	月曜	7
97788000	会社法事例研究		池島 真策	月曜	6
97788000	会社法事例研究		池島 真策	月曜	7
97788500	地方税実務		長行司 匡史	土曜	5
97788500	地方税実務		長行司 匡史	土曜	6

# 授業評価 アンケート回答用紙

関西学院大学  
経営戦略研究科

このアンケートは、授業をより充実させるための資料として教育改善を図ることを目的として実施します。  
この調査回答があなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

**記入上の注意**

- 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。 **マーク例**
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

良い例 ● 悪い例      うずい

科目名	
担当者名	
クラス	曜日

<b>学年</b>	① 1年	② 2年	③ それ以上		
<b>所属専攻</b>	① 経営戦略	② 会計専門職	③ その他		
<b>出身学部</b>	① 商・経済・経営系	② その他の社会科学系	③ 人文系	④ 理系	⑤ その他
<b>実務経験年数</b>	① なし	② 3年未満	③ 3年以上7年未満	④ 7年以上20年未満	⑤ 20年以上
<b>公認会計士試験</b>	① 受験予定		② 受験しない		

**記述評価項目**

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

.....

.....

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

.....

.....

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

.....

.....

	そう思う	だいたい そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	該当 しない
設問 1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 5 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 10 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 11 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 12 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 13 この授業は全般的に満足いくものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
*設問 14 この授業は今後の学習にとって有意義なものはありますか。	⑤	④	③	②	①	①
*設問 15 この授業は人事に役立ちそうですか。	⑤	④	③	②	①	①

ご協力ありがとうございました

# Class Evaluation questionnaire sheet

This evaluation is conducted for the purpose of educational development to improve the course. This survey will not affect your grades. Please be honest and considerate in your answers.

- NOTES**
1. Use HB pencil or mechanical pencil.
  2. Erase errors clearly with an eraser.
  3. Do not fold or damage the sheet.

Example

Good ● Bad ✓ ⊖ ✕ ○  
Too weak

Course title	
Instructor	
Class	Day

Year	<input type="radio"/> First	<input type="radio"/> Second	<input type="radio"/> Third
School	<input type="radio"/> BS	<input type="radio"/> AS	<input type="radio"/> Other
Undergrad major	<input type="radio"/> Commerce/Economics/Management	<input type="radio"/> Other Social Science	<input type="radio"/> Science/Engineering
	<input type="radio"/> Humanities	<input type="radio"/> Other	
Career	<input type="radio"/> None	<input type="radio"/> Less than 3 years	<input type="radio"/> 3-7 years
	<input type="radio"/> 7-20 years	<input type="radio"/> More than 20 year	
Will you take up a exam?	<input type="radio"/> Yes	<input type="radio"/> No	

## Description

a) Describe good points of the course in detail.

b) Describe your suggestions in detail for further improving the course.

c) Describe any further comments you have concerning the course.

	Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree	No answer
1 The course met the objectives and topics described in the syllabus.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
2 The instructor was well prepared for the classes.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
3 The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
4 The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
5 The instructor encouraged students comment and discussion.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
6 Instructor's interest in whether students learned was high.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
7 The amount of work assigned was reasonable.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
8 The course was well organized in terms of contents and time allocation.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
9 The instructor answered students' questions clearly and sufficiently.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
10 You prepared and reviewed thoroughly for the classes.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
11 You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
12 You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
13 Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
14 Course content were highly relevant and useful for your future career.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
15	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0

Thank you for your cooperation.





